

高等学校世界史B教科書における「海」
東京書籍

編章	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
世界のとびら					
	1. 自然環境 世界史の舞台	11	海域	漁民, 中継港(マラッカ), 物流, 文明の仲介	海洋と沿岸域に発達した民族, 都市と歴史
	3. 病気と伝染病	19	伝染病の歴史	人ともものが動く拠点としての港町 航路と伝染病 例)①港湾都市ジェノバ(イタリア):ペストのヨーロッパの玄関口 ②コロンブスの航海:天然痘, はしか, ペスト, インディオ人口の激減	人ともものが動く拠点としての港町 航路と伝染病
第1編 様々な地域世界					
序章 文明以前の人類	1 人類の登場	25	原人から新人へ	北米・南米への進出:海水面の低下 オセアニアへの進出:海路	人の移動と海水面, 航路
第1章 オリент世界と東地中海世界	1 オリент世界の成立	34-35	交易する諸民族	東地中海「海の民」フェニキア人の港市(シドン, ティハス) 植民市の建設(カルタゴ) ヘブライ人, 紅海の海上交易	民族の移動, 交易 港市国家
第1章 オリент世界と東地中海世界	3 ギリシア世界	39	東地中海の海洋文明	地中海東部, 海上交易 竜骨によって強化された船体+櫂, 帆 〈海洋性の文明〉エーゲ文明, クレタ文明, ミケーネ文明	交易 海洋性の文明 造船技術の向上
第1章 オリент世界と東地中海世界	3 ギリシア世界	42	ペルシア戦争と民主政	サラミスの海戦:アテネの軍船には漕ぎ手として下層市民が参加(→やがて市民が政治に参加するようになる)	海戦(海軍, 軍船)
第2章 地中海世界と西アジア	世紀の世界 2世紀の世界	62-63		「海の道」:ローマー東南アジア(インド洋, 南シナ海) 港市国家:扶南, チャンパー(林邑)の繁栄	交易
第3章 南アジア世界	2 ヒンドゥー世界の成立	70	南インド世界の展開	インド洋交易:季節風を利用した航海	交易
第6章 東南アジア世界	1 海の道の形成と東南アジア	102	東南アジアの基層文化 海の道のはじまり	サーフィン文化:漁労民の文化(世界的に珍しい海が産み出した文化) インド洋交易	交易 海洋文化
第6章 東南アジア世界	1 海の道の形成と東南アジア	103	港市国家の誕生(関連P.191)	インド洋と南シナ海を中継する港市国家	港市国家

編章	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
第6章 東南アジア世界	2 東南アジア諸国国家の再編成	104	海の道の発展 海路を支配する国家	広州に市舶司(国が交易を管理) マラッカ海峡の中継港, 南海交易の基地	交易 港市国家群
第2編 結び合う地域世界					
第8章 イスラーム世界の形成	3 イスラーム文明	124	イスラーム世界の都市と商業	宗教の広まり(巡礼のための人の移動) ダウ船(木造船, 三角帆1枚)	人の移動 宗教の拡散
第9章 ヨーロッパ世界の形成	3 封建社会と都市	140	包囲される西ヨーロッパ	ヴァイキング:優れた造船と航海の技術	交易, 略奪
第9章 ヨーロッパ世界の形成	3 封建社会と都市	143,144	商業と都市の発展	地中海貿易圏(ヴェネツィア, ジェノヴァ, ピサなど) バルト・北海交易圏(ブリュージュ, ガン, ロンドンなど)	港市 交易
第9章 ヨーロッパ世界の形成	6 中世的世界の動揺	151	ペストと「死の舞踏」	地中海と黒海交易, ジェノバからのヨーロッパのペスト流行	交易 病気
第9章 ヨーロッパ世界の形成	6 中世的世界の動揺	155	ポルトガルとスペインの台頭	ポルトガル:インド航路開発 スペイン:1942コロンブスの大西洋横断航海	海外進出
第10章 東アジア世界の変容とモンゴル帝国	3 ユーラシア大陸をおおうモンゴル帝国	170, 173	モンゴル帝国時代の東西交流	東南アジアの港市にムスリム商人が定着 マルコポーロ(ベネツィアの商人, 東方見聞録)復路は海路 イブン=バトゥータ(モロッコ生まれ, イスラム的知識人)三大陸周遊記)	交易
第3編 一体化する世界					
第11章 海域世界の発展		180-191		10世紀以降は世界の交易は海上交易が中心となる	交易
第11章 海域世界の発展	1 三つの海域世界の成立	182-184	南シナ海:中国商人の海 インド洋:ムスリム商人の海 地中海:イタリア商人の海	東シナ海, 南シナ海, インド洋, アラビア海, 地中海への輸出 インドからペルシア湾沿岸へ. インドから紅海沿岸へ. ダウ船 地中海交易:ヴェネツィア, ジェノバ, ピサなど。ガレー船, ラテン帆の船	交易
第11章 海域世界の発展	2 海域世界の拡大	185-186	倭寇の活動と海禁 インド洋海域の発展	東シナ海, 南シナ海の海上貿易 インドの東西海岸諸都市の発展	交易

編章	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
第11章 海域世界の発展	3 海と陸の結合一東南アジア世界の発展3	187-191	港市国家の発展 マラッカと鄭和	南海交易 港市国家と内陸のつながり 明の朝貢 マラッカ:海の交易の中心(東南アジアの流通網, ムスリム商人と中国商人)	交易 港市国家
第11章 海域世界の発展		191	港市国家とは何か	政治的独立性をもった海の中継地. 代表例:13-18世紀ヴェネツィア 銀価格の統一, 技術の進歩などにより衰退したが, 20世紀後半新しい港市国家が生まれた. 例:シンガポール	交易
第13章 大交易時代		214-227		15世紀初めから全地球的な交易網が生まれた 東洋の香辛料への関心	交易
第13章 大交易時代	1 海洋帝国の出現	216-219	東洋への関心 ポルトガルのインド洋進出 ポルトガルの南シナ海, 東シナ海進出 海洋帝国 スペインのアメリカ大陸進出と世界周航 アメリカの征服	アフリカ南端(喜望峰)を通過し, インド西岸への航路(ヴァスコ=ダ=ガマ). マラッカの軍事占領 南シナ海交易, マカオの居住権. 種子島, 平戸に来航 海上ルートの支配により 複数の世界を結ぶ交易の独占をはかる国家 コロンブス(ジェノバ出身)の大西洋横断. マゼランの世界就航. スペインによる中南米の征服. イギリス, フランスによる北米大陸の植民地化.	航海, 航路, 伝染病
第13章 大交易時代	2 大交易時代の世界	220-225	ヨーロッパ世界の変容 東南アジアの活況 南シナ海・東シナ海の国際交易 オランダ東インド会社 東アジア世界の変容	商業革命(大西洋沿岸の諸都市が国際商業の中心となる) 諸海域間の交易 ポルトガル, スペインの参入, 日本産銀の大量提供. 朱印船貿易. オランダ, イギリス, フランス	交易
第14章 近世のヨーロッパ	3 オランダの繁栄と英仏の追いあげ	237	オランダの独立と商業覇権	最先端の造船技術, バルト海交易, 漁業 海洋の自由を唱える 日本との交易	交易

編章	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
第14章 近世のヨーロッパ	4 近代ヨーロッパの社会と文化	250	探検の時代		海外進出
第15章 欧米における工業化と国民国家の形成	1 激化する経済覇権抗争	254	砂糖と綿布と三角貿易 奴隷貿易とアフリカ	イギリス・フランスー西アフリカーアメリカの大西洋三角貿易	交易
第4編 一体化の進展と世界の再編					
第17章 アジア諸地域の変革運動		306	スエズ運河の開通	1869年スエズ運河開通	交易
第17章 アジア諸地域の変革運動	2 南アジア・東アジアの植民地化と民族運動の黎明	321	オセアニア(北太平洋地域)の植民地化	南太平洋地域:3万年前に最初の人に移住 6000年前ー10世紀頃にカヌーを操って移住 クックの航海(P.250)	人の移動 植民地
第18章 世界戦争の時代	6 第二次世界大戦	368	アジア太平洋戦争	アジアから太平洋への戦線の拡大	海戦(戦争)
第5編 地球世界の成立					
終章 経済のグローバル化と新たな地域秩序	3 21世紀を生きるー地球的課題の時代	416	環境問題	地球温暖化, 海水面の上昇, 環境難民	環境問題

宗教の広まりと海路					
第2章 地中海世界と西アジア	3 古代末期の社会と地中海世界の解体	56		4世紀後半 キリスト教	宗教の広まり
第3章 南アジア世界	1 北インド世界の展開	69		仏教	宗教の広まり
第9章 ヨーロッパ世界の形成	4 カトリック教会と十字軍	147		十字軍	宗教の広まり, 対立

世界史の教科書に出てくる船					
第2章 地中海世界と西アジア	1 オリент世界の成立	35		フェニキア人の商船:レバノン杉を用いた	船の形
第2章 地中海世界と西アジア	世紀の世界 2世紀の世界	63		古代の船	船の形
第11章 海域世界の発展		181		ジャンク船	船の形
第11章 海域世界の発展	1 三つの海域世界の成立	125 183		ダウ船	船の形
第9章 ヨーロッパ世界の形成	6 中性的世界の動揺	155		ポルトガルの帆船	船の形
第11章 海域世界の発展	1 三つの海域世界の成立	184		ガレー船	船の形
第12章 ユーラシア諸帝国の繁栄	4 明と東アジア世界	206		亀甲船	船の形

編章	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
第15章 欧米における工業化と国民国家の形成	1 激化する経済覇権抗争	255		イギリスの奴隷船	船の形
第18章 世界戦争の時代	1 第一次世界大戦	340		Uボート	船の形

世界史 B

東京書籍 平成 24 年 3 月 文部科学省検定済, 平成 26 年 1 月印刷, 平成 26 年 2 月発行
2 東書 世 B301

世界史のとびら

11 ページ：海域

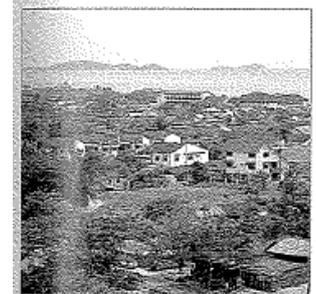
漁民, 中継港, 物流, 都市国家, 文明の仲介

< 海洋との関わり >

沿岸域に発達した民族
都市と歴史

海域 陸地の周辺には海が広がっている。海岸部には農業開始のはるか以前から**漁民**が生活していた。砂漠周辺のステップにはじまった人類の農業文化は、前千年紀までに各大陸の海岸部にまでおりてきて漁民と接触した。海では、この漁民が諸地域交流の主役となった。海域は、当初、その地域内の交流のみに用いられたが、地域ごとの接点に**中継港**が生まれて、異なる地域の**物流を仲介**するようになった。中継港はしだいに**都市国家**に発展し、物流を担うだけでなく、**文明をも運ぶ**ようになった。

11 ページ



④ **マラッカ** (マレーシア) 中継港として、歴史のなかで重要な役割を担った (→p.190)。1511年、ポルトガルに占領された。現在もポルトガル風の街並みがのこされている。

18 ページ：伝染病の歴史

人とものが動く拠点としての港町, 航路と伝染病

- 例) ① 港湾都市ジェノバ (イタリア) : ペストのヨーロッパ玄関口
- ② コロンブスの航海 : 天然痘, はしか, ペスト, インディオ人口の激減

< 海洋との関わり >

人とものが動く拠点としての港町, 航路と伝染病



3 病気と伝染病

人は病気になる
私たちの日常生活から病気は切り離すことができない。私たち人間には、病気が

18 ページ

第1編 様々な地域社会

序章 文明以前の人類

1 人類の登場

25 ページ 原人から新人へ

北米・南米への進出 : 海水面の低下
オセアニアへの進出 : 海路

< 海洋との関わり >

人の移動と海水面
航路

新人はユーラシアとアフリカのほとんどの地域に住むようになった。さらに、**そのころ陸つづきであったベーリング海峽を**おいて**アメリカ大陸にも移住し**, 1万年前には南アメリカ南端の**フエゴ島**にまで広がった。また、**東南アジア**からオセアニアに進出する者もいた。新人が世界各地に広まるとともに、地域ごとの文化の差異が生

25 ページ

第1章 オリент世界と東地中海世界

1 オリент世界の成立

34-35ページ 交易する諸民族

東地中海「海の民」(破壊と略奪)

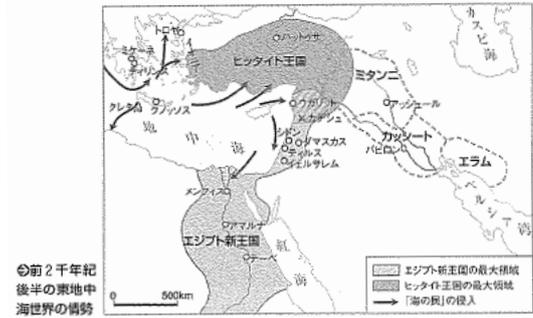
フェニキア人の港市国家, 東地中海の商業交易, 植民市の建設

ヘブライ人, 紅海の海上交易

< 海洋との関わり >

民族の移動, 交易, 港市国家

34 ページ



3 ギリシア世界

39ページ 東地中海の海洋文明

地中海東部, 前3千世紀後半より海上が交易盛んになる

竜骨によって強化された船体+櫂, 帆

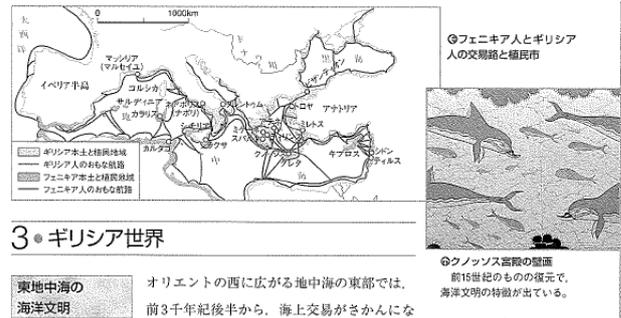
エーゲ文明, クレタ文明, ミケーネ文明 (海洋性の文明)

< 海洋との関わり >

交易

海洋性の文明

39 ページ



41-42ページ ペルシア戦争と民主政

サラミスの海戦 (アテネ vs ペルシア): アテネの軍船には漕ぎ手として下層市民が活躍。市民が国政に参加するようになる (民主政治へ)。

< 海洋との関わり >

海戦 (海軍, 軍船)

42 ページ



第1章 地中海世界と西アジア

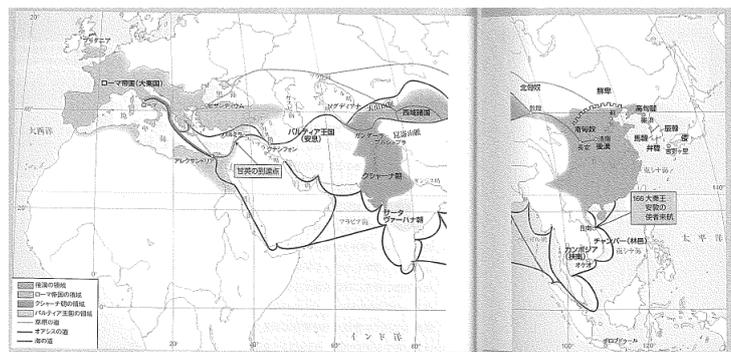
62-63ページ 2世紀の世界

「海の道」: ローマー東南アジア (インド洋, 南シナ海)

港市国家, 扶南, チャンパー (林邑) の繁栄

< 海洋との関わり >

交易



第3章 南アジア

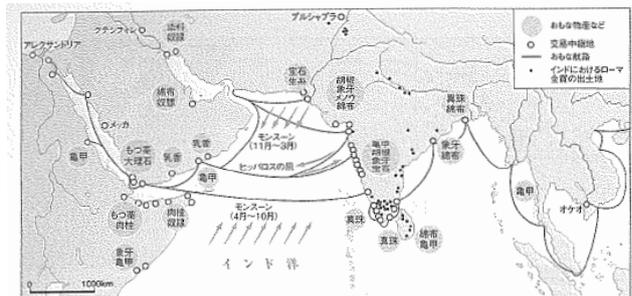
2 ヒンドゥー世界の成立

70ページ 南インド世界の展開

インド洋交易：季節風を利用した航海

< 海洋との関わり >

交易



◎後1～2世紀のインド洋交易（「エリュトラー海案内記」にみえる物産などと交易中継地）インド洋では夏には南西からの季節風、冬には北東からの季節風が吹く。後1～2世紀ごろのエジプトに住むギリシア人航海者の執筆といわれる「エリュトラー海案内記」や、後1世紀のアリウスの「傳物誌」には、前1世紀ごろのギリシア人ヒッパロスがこの季節風を発見したので「ヒッパロスの風」とよばれたとある。実際にはこれ以前に、フェニキヤ人やインド人がすでに季節風を航海に利用していたと考えられている。

70ページ

第6章 東南アジア世界

1 海の道の形成と東南アジア

102ページ 東南アジアの基層文化、海の道のはじまり

サーフィン文化：漁労民の文化（世界的に珍しい海が産み出した文化）

インド洋交易

南海交易

102ページ 港市国家の誕生

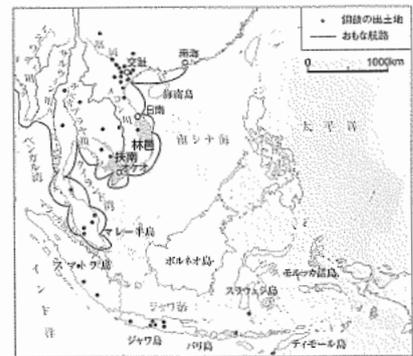
インド洋と南シナ海を中継する港市国家（コラム P.191）

< 海洋との関わり >

交易

海洋文化

港市国家



◎2～3世紀の東南アジア
して、東アジア、南アジア、

103ページ

2 東南アジア諸国国家の再編成

104ページ

海の道の発展

海路を支配する国家

マラッカ海峡の中継港

広州の市舶司（国が交易を管理）

南海交易の基地

< 海洋との関わり >

交易

港市国家群

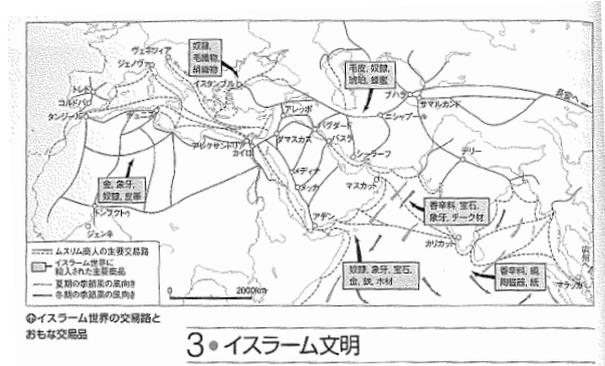


104ページ

第2編 結び合う世界地域
 第8章 イスラーム世界の形成
 3 イスラーム文化

124 ページ イスラーム世界の都市と商業
 宗教の広まり、巡礼のための人の移動
 ダウ船 (木造船, 三角帆1枚).

< 海洋との関わり >
 海軍
 国防 (沿岸警備)



124 ページ

第9章 ヨーロッパ世界の形成
 3 封建社会と都市

140 ページ 包囲されるヨーロッパ
 ヴァイキング：優れた造船と航海の技術

< 海洋との関わり >
 交易
 略奪

スカンディナヴィア半島やユトランド半島に住む北方ゲルマン系のノルマン人は、**ヴァイキング** (Vikings) (ヴィキング, 入り江の人の意) の名で恐れられた。彼らは**すぐれた造船と航海の技術**をもち、ヨーロッパ沿岸一帯で**交易や略奪**を行い、河川沿いに内



143-144 ページ 商業と都市の発展
 地中海貿易圏 (ヴェネツィア, ジェノヴァ, ピサなど)
 バルト・北海交易圏 (ブリュージュ, ガン, ロンドンなど)

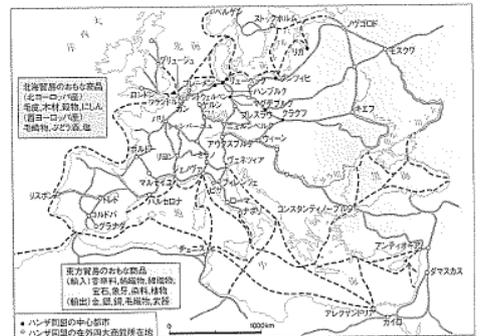
< 海洋との関わり >
 港市国家
 交易



④ヴェネツィア「アドリア海の女王」といわれたヴェネツィアは、百以上の島とその間をぬう運河によってなっている。物資の出し入れも水上から行われた水の都である。

144 ページ

ヨーロッパの都市は、起源をたどると、ローマ時代の市街地や司教の教会、君主・諸侯に結びついた。中世ヨーロッパの都市と交易路 地域的な交易圏を相互に結びつけるようなルートに注目したい。



6 中世的世界の動揺

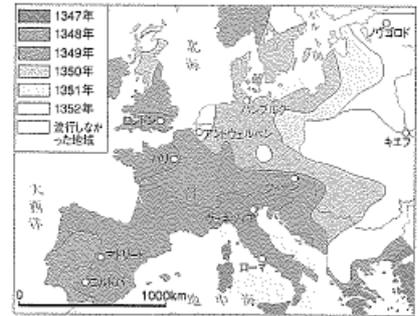
156-158ページ ペストと「死の舞踏」

地中海と黒海の交易, ジェノバ(港市国家)からのヨーロッパのペスト流行

< 海洋との関わり >

交易

病気



④ペスト(黒死病)に襲われたヨーロッパ世界

155ページ ポルトガルとスペインの台頭

ポルトガル: インド航路開発

スペイン: 1492年コロンブスの大西洋横断航海

< 海洋との関わり >

海外進出

15 ポルトガルは15世紀後半にジョアン2世のもとでインド航路開発をすすめ、ヨーロッパによるアジア進出の先陣を切った。
アラゴン王子フェルナンドとカスティリヤ女王イサベルの結婚から、1479年に両国が合併してスペイン王国が誕生した。スペインは、1492年、イスラーム勢力最後の拠点ナスル朝のグラナダを攻略し、
20 イベリア半島でのレコンキスタを完了した。カトリックの性格の強い王権のもとで、スペインは、1492年のコロンブスによる大西洋横断航海などを支援して、積極的に海外進出をはかることになる。

155ページ

第10章 東アジア世界の変容とモンゴル帝国

3 ユーラシア大陸をおおうモンゴル帝国

173ページ モンゴル帝国時代の東西交流

東南アジアの港市にムスリム商人が定着

マルコポーロ(ベネツィアの商人, 東方見聞録) 復路は海路

イブン=バトゥータ(モロッコ生まれ, イスラム的知識人, 三大陸周遊記)

< 海洋との関わり >

交易

日本や東南アジアの大越国(陳朝)やジャバなどは、モンゴル帝国の武力侵攻を退けたが、帝国との交易活動は活発に行った。その結果、東西を結ぶ海上交易も活性化し、元朝支配下の杭州、泉州、広州などが繁栄し、さらに大運河と海路によって、これら華南の都市と大都が結ばれた。海路でも主としてムスリム商人が交易を担った。この時代から、東南アジアの港市にムスリム商人が定着するようになり、東南アジアの島嶼部のイスラーム化がはじまっている。海路を利用した人の行き来も活発で、『世界の記述(東方見聞録)』を口述したヴェネツィアの商人マルコ=ポーロは、陸路を利用して大都を訪れ、フビライに仕えたのち海路を利用して帰国している。また、モロッコ生まれで『三大陸周遊記』で知られるイブン=バトゥータも海路を利用して中国までいたっている。

173ページ

第3編 一体化する世界

第11章 海域世界の発展

180ページ 海域世界の発展

10世紀以降は世界の交易は海上交易が中心となる

< 海洋との関わり >

交易

180ページ



1 三つの海域世界の成立

船の種類は最後のページを参照

182ページ 南シナ海—中国商人の海

「陶磁の道」：陶磁器（青磁・陶磁）東シナ海，南シナ海，インド洋，アラビア海，地中海への輸出

ジャンク船：中国式の外洋船。船腹が大きく，重量物交易品の積載に適する

南シナ交易：中国商人が主体

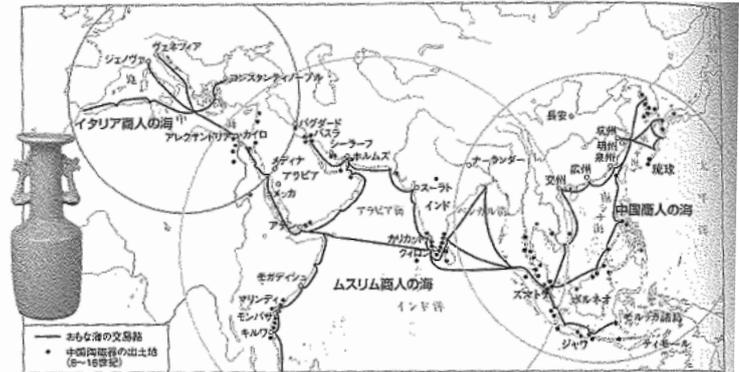
市舶司：専売品の買い上げ，関税の徴収，中国船の出港の許認可など（関連P.191）

183ページ インド洋—ムスリム商人の海

インド洋交易：ムスリム商人が主体。

ダウ船

インドからペルシア湾沿岸へ。インドから紅海沿岸へ。



◎10～11世紀の世界の諸海域と海の交通路（中国陶磁の出土分布は青磁洋途による）写真は中国の青磁。また，元代には，中国にイスラーム世界からコバルト原料がもたらされ，染付（→P.208）とよばれる陶磁器は，重要な輸出品となった。

1 ●三つの海域世界の成立

南シナ海—中国商人の海

10世紀末，宋代の中国の商業経済は急速な成長をとげた。都市人口は急増し，香料など

182ページ

184ページ 地中海—イタリア商人の海

地中海交易：ヴェネツィア，ジェノバ，ピサなど。

ガレー船，ラテン帆の船

< 海洋との関わり >

交易，港市都市

*イタリア海軍の紋章はこの当時栄えた海洋共和国のヴェネツィア共和国、ジェノヴァ共和国、アマルフィ共和国およびピサ共和国の紋章を配置している。

2 海域世界の拡大

182ページ 倭寇の活動と海禁

東シナ海，南シナ海の海上貿易

「倭寇」と呼ばれる海賊集団

琉球王国の那覇は国際港として機能

183ページ インド洋海域の発展

インドの東西海岸諸都市の発展

文化の融合（スワヒリ語）

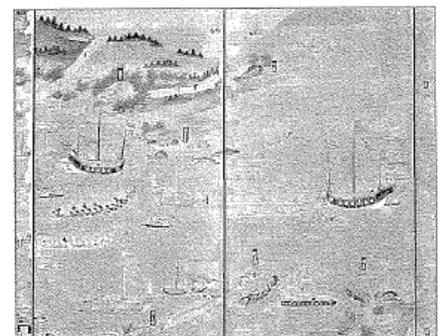
< 海洋との関わり >

交易，港市都市

185ページ

縮まりを条件に勘合貿易に参加し地に割拠していたが，14世紀はじめにまとまり，それぞれが明に朝貢里の中山王がこれを統一し，明のた。琉球王国の国際港那覇には多本や朝鮮，東南アジア諸国と中国

◎那覇港 琉球は南シナ海と東シナ海を結ぶ位置にあり，那覇港は琉球王國の王都首里の外港（商埠などに付随する港）として，14世紀以来，東南アジアの物資を東アジア諸国に運ぶ中継港として発展した。15世紀には東南アジア方面や中国からの多くの船が訪れた。

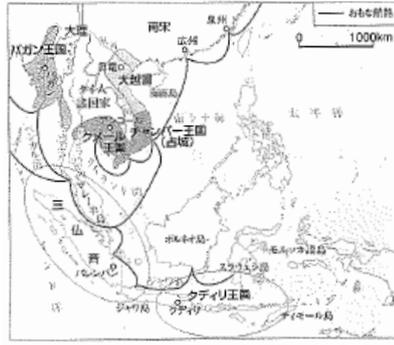


3 海と陸の結合—東南アジア世界の発展

187ページ 港市国家の発展

南海交易

港市国家と内陸のつながり



12世紀の東南アジア

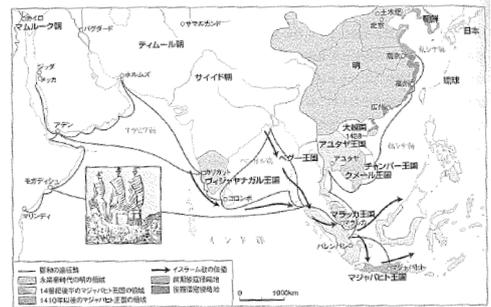
187ページ

190ページ マラッカと鄭和

明の朝貢

交易

マラッカ:海の交易の中心(東南アジアの流通網, ムスリム商人と中国商人)



190ページ

< 海洋との関わり >

交易, 港市国家

191ページ 港市国家とは何か

港市国家: 政治的独立性を持った海の中継地

ヴェネツィア共和国, マラッカ王国, 琉球王国, 室町期の博多, 堺など



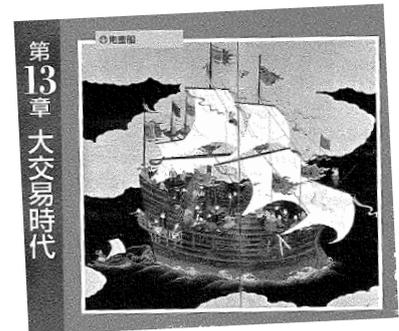
191ページ

第13章 大交易時代

214-227ページ

15世紀初めから全地球的な交易網が生まれた

東洋の香辛料への関心



1 海洋帝国の出現

216-219ページ

東洋への関心

ポルトガルのインド洋進出: アフリカ南端(喜望峯)を通過し, インド西岸への航路(ヴァスコ＝ダ＝ガマ), マラッカの軍事占領

ポルトガルの南シナ海, 東シナ海進出: 南シナ海交易, マカオの居住権, 種子島, 平戸に来航

海洋帝国: 海上ルートの支配により複数の世界を結ぶ交易の独占をはかる国家

スペインのアメリカ大陸進出と世界周航: コロンブス(ジェノバ出身)の大西洋横断, マゼランの世界就航.

アメリカの征服: スペインによる中南米の征服. イギリス, フランスによる北米大陸の植民地化.



216ページ

< 海洋との関わり >

航海, 航路



④サン＝サルバルドル島に上陸するコロンブス 17世紀の本の挿絵。十字架を立て、島民から歓迎されているように描かれているが、これは当時のヨーロッパ人の考えを反映したものである。

218ページ

2 大交易時代の世界

220-225ページ

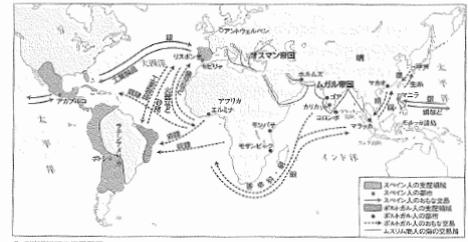
ヨーロッパ世界の変容：商業革命（大西洋沿岸の諸都市が国際商業の中心となる）

東南アジアの活況：諸海域間の交易

南シナ海・東シナ海の国際交易：ポルトガル、スペインの参入、日本産銀の大量提供、朱印船貿易、

オランダ東インド会社：オランダ、イギリス、フランス

東アジア世界の変容



17世紀初期の世界貿易
世界が各地の特産品の交換を通じて、密接に結びあうようになった。
2・大交易時代の世界

220 ページ

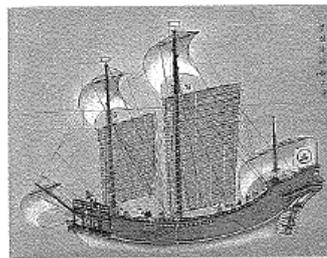
< 海洋との関わり >

交易



大交易時代の東南アジア

222 ページ



朱印船 江戸幕府から運航許可書（朱印状）を得てベトナム、タイ、フィリピンなどと交易を行った日本の商船である。わかっているだけでも、17世紀はじめの30年間に356隻が運航している。



オランダ東インド会社の造船所（ロッテルダム）会社は、政府の特許状により、交易の独占権のみならず、条約の締結、自衛戦争、要塞構築などの権限をもっていた。

223 ページ

第14章 近世のヨーロッパ

2 オランダの繁栄と英仏の追いあげ

236ページ オランダの独立と商業覇権

海運業奨励策政策

最先端の造船技術、バルト海交易、漁業

海洋の自由を唱える（グロティウス）

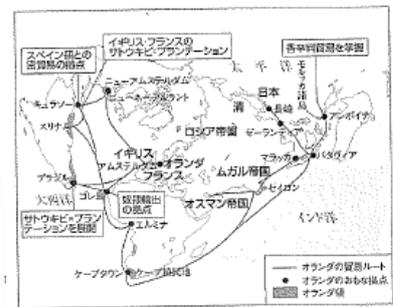
日本との交易

< 海洋との関わり >

交易

オランダは、当時最先端の造船技術をもち、バルト海交易や漁業で栄えたうえ、南部から新教徒の商工業者が移ってきて毛織物業も繁栄した。さらにスペインやポルトガルの貿易独占に対抗するため、海洋の自由を唱え、アジアやアメリカ大陸に進出し、ブラジルではサトウキビプランテーションを営営し、大西洋奴隷貿易にも加わった。こうして、オランダは世界全体に貿易網をめぐらせ、英仏に

236 ページ



ペス女王が没すると、スコットランド王に迎えられ、ジ

オランダの世界貿易網 (17世紀中ごろ) 1602年にオランダ東インド会社、1621年にオランダ西インド会社が設立された(-p.229)。

237 ページ

4 近世のヨーロッパ

250ページ 探検の時代

タスマン：バタヴィアから南太平洋

クック：南太平洋

< 海洋との関わり >

航海、交易

探検の時代

ヨーロッパ近世は、ヨーロッパの海外進出がはじまる時代で、それにとまらぬ探検の時代でもあった。近世初期の大交易時代には、ポルトガルやスペインによって、大西洋沿いのアフリカやアメリカ大陸が探検され、宣教師による布教ももたらされた。

17、18世紀には太平洋海域が未知の世界として注目され、17世紀半ばタスマンは、オランダ東インド会社から派遣されて、バタヴィアから南太平洋を探検した。18世紀後半になると、フランスやイギリスも南太平洋に進出するようになり、クックの探検はイギリス王立協会への依頼によるものであった。イギリスがオーストラリアに植民をはじめるのは1780年代のことである(-p.229)。

250 ページ

第15章 欧米における工業化と国民国家の形成

1 激化する経済覇権抗争

254ページ 砂糖と綿布と三角貿易

イギリス・フランスー西アフリカーアメリカの大西洋三角貿易

255ページ 奴隷貿易とアフリカ

< 海洋との関わり >

交易

254 ページ



◎18世紀中ごろの世界貿易とヨーロッパ列強の権力圏

第4編 一体化の進展と世界の再編

第17章 アジア諸地域の変革運動

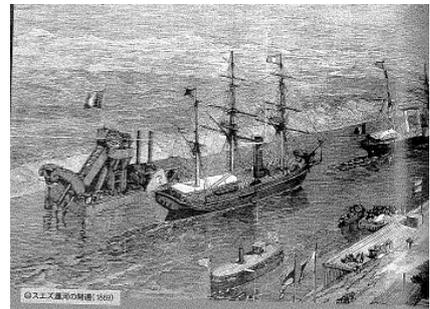
306ページ スエズ運河の開通

1869年スエズ運河開通

< 海洋との関わり >

交易

306 ページ



◎スエズ運河の開通(1869)

3 南アジア・東南アジアの植民地化と民族運動の黎明

321ページ オセアニア（北太平洋地域）の植民地化

南太平洋地域：3万年前に最初の人に移住

6000年前ー10世紀頃にカヌーを操って移住

クックの航海 (P.250)

< 海洋との関わり >

人の移動, 植民地

321 ページ



◎東南アジアとオセアニアにおける初期植民地化の勢力圏(20世紀初頭)

第18章 世界戦争の時代

6 第二次世界大戦

368ページ アジア・太平洋戦争

アジアから太平洋への戦線の拡大

< 海洋との関わり >

海戦

368 ページ



◎戦線の拡大

第5編 地球世界の成立

終章 経済のグローバル化と新たな地域秩序

3 21世紀を生きる—地球的課題の時代

416ページ 環境問題

地球温暖化

環境難民（海面上昇による海岸の浸食）

< 海洋との関わり >

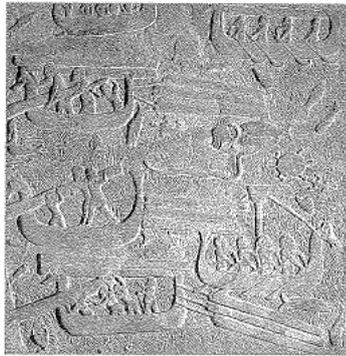
海水面の上昇，海水温度上昇，海洋酸性化

環境問題

科学文明が発展した20世紀には、科学文明が生み出した環境破壊が大きな問題となった。工場排煙や自動車の排気ガスが大気汚染をもたらし、酸性雨の原因となり、それが森林を枯らしている。また、フロンによるオゾン層の破壊は生態系に大きな影響を与えている。二酸化炭素などの温室効果ガスの大量発生は、地球温暖化をまねき、気候変動や海面上昇などをもたらすとされている。砂漠化や森林の減少も大きな問題となっている。こうした問題のため、環境難民も生まれている。

世界史の中の船

フェニキアの商船 前700年



とそれにつづいてソロモン王の宮殿に造られた。彼らは隊商交易の中心地となっていた。前700年ごろの宮殿の浮き彫り。

35 ページ

アテネの軍船 前500年



アテネの軍船 ペルシア戦争では、漕ぎ手が上中下3段に並んだ三段櫓船が用いられた。青銅でおおった船首を、敵の船腹にぶつけて戦った。

42 ページ

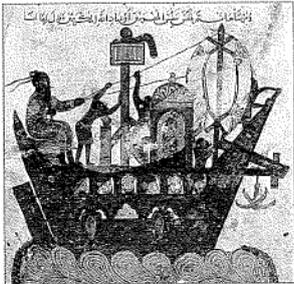
古代の船



古代の船(ポロブドゥールの浮き彫り) ポロブドゥールの巨艦には多くの浮き彫りがある。安定をよくするために浮木(アウトリガー)をつけたこの型の船は、東南アジア、南太平洋にみられる。

63 ページ

ムスリムの商船(ダウ船)



インド洋を航行するムスリム商人 彼らはダウ船を使って航海したが、船の所有者、船長、乗船する商人などの権利・義務が詳細に定められていた。

125 ページ

遣唐使船 7世紀から



遣唐使船 7世紀前半にはじまった遣唐使は、唐の文化や政治制度の摂取に努めた。小型の4隻の船で連続するのが一般的であった。

129 ページ

ポルトガル帆船 14世紀から



大交易時代のポルトガルの帆船 大砲が装備されている。

155 ページ

ジャンク船



181 ページ

ダウ船



183 ページ

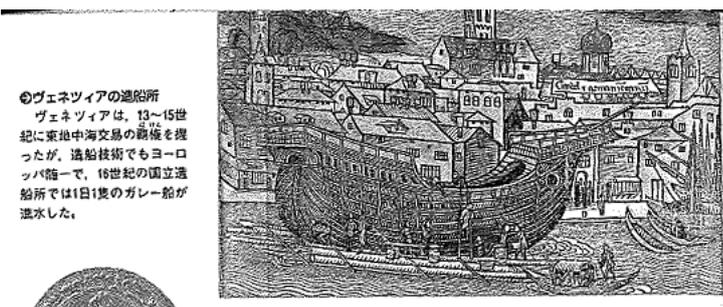
ラテン帆の船



ラテン帆の船 古くから地中海では、三角形のラテン帆をもつ船が用いられていた。

184 ページ

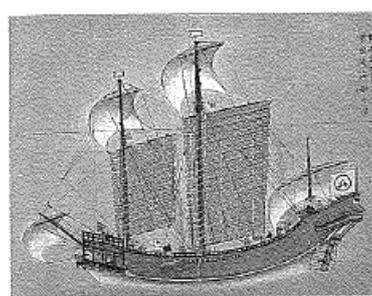
ガレー船



ヴェネツィアの通船所 ヴェネツィアは、13~15世紀に東地中海交易の拠点を握ったが、造船技術でもヨーロッパ随一で、16世紀の国立造船所では1日1隻のガレー船が造られた。

184 ページ

朱印船



224 ページ

高等学校日本史B教科書における「海」
山川出版

編章	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
国宝を見る	天橋立図			関連 p.141	海を題材とした絵画
第1部 原始・古代					
第1章 日本文化のあけぼの	1 文化の始まり		8 日本列島と日本人	氷期には海面が現在と比べると著しく低下 陸続きとなったアジア大陸北東部から渡来か？ 完新世になると海面は上昇し、現在に近い日本列島が成立	気候変動と海水面の変化 日本列島の成立
第1章 日本文化のあけぼの	1 文化の始まり		13 縄文人の生活と信仰	海進(海面の上昇)により、漁労が発達(釣針, 銚, やす), 貝塚 丸木舟, 外洋航海術を持っていた	漁労航海
第1章 日本文化のあけぼの	3 古墳とヤマト政権		27 東アジア諸国との交渉	技術や文化の伝来 中国南朝に朝貢	渡来人 朝貢
第2章 律令国家の形成	1 飛鳥の朝廷		35-36 東アジアの動向とヤマト政権の発展	遣隋使(小野妹子)	外交 文化の移入
第2章 律令国家の形成	2 律令国家への道		39 律令国家への道	対馬・壱岐・筑紫に防人と烽	国防
第2章 律令国家の形成	3 平城京の時代		44-45 遣唐使	唐:遣唐使 新羅:遣新羅使, 民間商人の往来 渤海:使節の往来	外交, 交易 文化の移入
第2章 律令国家の形成	4 天平文化		55-56 国史編纂と『万葉集』	万葉集, 防人の歌(p.39) 鑑真, 渡航の失敗	国防 文化の移入
第3章 貴族政治と国風文化	1 摂関政治		71 国際関係の変化	九州博多:宋の商人の来航 日本人の渡航は禁止	交易
第3章 貴族政治と国風文化	3 地方政治の展開と武士		82 地方の反乱と武士の成長	藤原純友の乱:瀬戸内海 の海賊	海戦

編章	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
第II部 中世					
第4章 中世社会の成立	2 鎌倉幕府の成立	96	源平の争乱	治承・寿永の乱. 兵士の水軍, 屋島の合戦, 壇ノ浦の戦い 壇ノ浦の戦いのあった関門海峡は水路が狭く水深も浅いため, 潮の干満による潮位の差が大きい. その結果, 潮流の向きが変わるときには非常に速くなることがある. 平家側は見方に有利な潮の流れであることを確かめてから攻撃を仕掛け源氏側を追い込んだが, 源氏側は平家の猛攻をしのいだ. 潮の流れが逆転したことで平家側は不利になり, 平家は壇ノ浦に追いつめられた	海戦 海の潮位, 潮流の流れが歴史に影響を及ぼした例である
第4章 中世社会の成立	4 蒙古襲来と幕府の衰退	107	蒙古襲来	蒙古襲来(文永の役, 弘安の役)	海戦
第5章 武家社会の成長	1 室町幕府の成立	127-129	東アジアとの交易	倭寇(海賊) 日明貿易(朝貢貿易) 商人の活躍: 界, 博多	交易
第5章 武家社会の成長	4 戦国大名の登場	152	都市の発展と町衆	貿易港 界, 博多	交易
第III部 近世					
第6章 幕藩体制の確立	1 織豊政権	156-158		(ヨーロッパ)大航海時代 1543中国人倭寇の船, 種子島ポルトガル人 南蛮貿易 1582天正遣欧使節	交易
第6章 幕藩体制の確立	1 織豊政権	164-165	秀吉の対外政策と朝鮮侵略	1588海賊取締令 文禄・慶長の役(朝鮮侵略)	侵略
第6章 幕藩体制の確立	3 幕藩体制の成立	177-182	江戸時代初期の外交 鎖国政策 長崎貿易	肥前(長崎)平戸の商館 1613慶長遣欧使節 朱印船 オランダ商館, 中国の民間商船, 朝鮮国, 琉球王国, アイス民族とのみ交渉	交易
第6章 幕藩体制の確立	4 幕藩社会の構造	192	林業・漁業	林業・農業は多様に発達 タンパク質としての魚介類	漁業の発達(道具, 漁法の発展) 魚介類の加工技術の発達
第6章 幕藩体制の確立	歴史の説明	196	朝鮮通信使		

編章	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
第7章 幕藩体制の展開	2 経済の発展	205	諸産業の発達	漁法の改良, 沿岸部の漁場の開発 製塩業	産業
第7章 幕藩体制の展開	2 経済の発展	207-208	交通の整備と発達	水上交通の発達 菱垣廻船, 東廻り海運・西廻り海運, 樽廻船, 北前船, 内海船	物流
第8章 幕藩体制の動揺	3 幕府の衰退と近代への道	234-235	鎖国の動揺	外国船の来航	外交
第8章 幕藩体制の動揺	4 化政文化	244	学問・思想の動き	伊能忠敬「大日本沿海輿地全図」	沿岸図
第8章 幕藩体制の動揺	4 化政文化	246	美術	浮世絵 富嶽三十六景	芸術
第IV部 近代・現代					
第9章 近代国家の成立	1 開国と幕末の動乱	250-254	開港	開港: 神奈川, 長崎, 新潟, 兵庫 貿易: 横浜, 長崎, 箱館	外交 交易
第9章 近代国家の成立	1 開国と幕末の動乱	256	公武合体と尊攘運動	四国艦隊下関砲撃事件, 薩英戦争	海戦
第9章 近代国家の成立	3 立憲国家の成立と日清戦争	290	日清戦争と三国干渉	1894豊島沖海戦 1894黄海戦: 北洋艦隊を撃破	海戦
第9章 近代国家の成立	4 日露戦争と国際関係	295	日露戦争	1905日本海海戦: バルチック艦隊を全滅	海戦
第9章 近代国家の成立	5 近代産業の発展	300	産業革命	海運業奨励政策 (造船奨励法、航海奨励法)	海運業
第10章 二つの世界大戦とアジア	6 第二次世界大戦	362-365	太平洋戦争		海戦

詳説日本史

山川出版 2012年3月 文部科学省検定済, 2014年3月印刷・発行

81 山川 日 B301

第I部 原始・古代

第1章 日本文化のあけぼの

1 文化のはじまり

8-9ページ：日本列島と日本人

< 海洋との関わり >

気候変動と海水面の変化

日本列島の成立

『日本列島と日本人』 地球上に人類が誕生したのは、今からおよそ650

万年前の地質学でいう新第三紀の中新世後期である。人類は新第三紀の終わり近くから第四紀を通じて発展したが、この第四紀は、およそ1万年余り前を境に更新世と完新世とに区別される。更新世は氷河時代とも呼ばれ、寒冷な氷期と比較的温暖な間氷期が交互に繰り返して訪れ、氷期には海面が現在に比べて著しく下降した。

この間少なくとも2回、日本列島はアジア大陸北東部と陸続きになり、トウゾクゾウやナウマンゾウなどがやってきたと想定されている。こうした大型動物を追って、人類も日本列島に渡来した可能性はあるが、その確実な証拠はまだ発見されていない。最後の氷期が過ぎて完新世になると海面が上昇し、およそ1万年余り前にはほぼ現在に近い日本列島が成立する。



更新世末期の日本列島(町田洋一郎より) 更新世末期の最後の氷期には、岩手と朝鮮半島の間、本州と北海道の間はこの図のように切れていたと考えられる。

13ページ：縄文人の生活と信仰

< 海洋との関わり >

海面の上昇

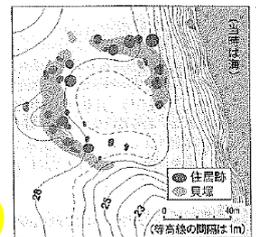
漁労の発達：釣針、銚、やす、網

貝塚

外洋航海術

などの栽培も始まっていた可能性が指摘されているが、本格的な農耕の段階には達していなかった。土掘り用の打製の石鍬、木の実をすりつぶす石皿やすり石なども数多く出土している。

狩猟には弓矢が使用され、落とし穴などもさかんに利用され、狩猟のおもな対象はニホンシカとイノシシであった。また、海面が上昇する海進の結果、日本列島は入江の多い島国になり、漁労の発達をうながした。このことは、今も各地に数多く残る縄文時代の貝塚からわかる。釣針・銚・やすなどの骨角器とともに石鏃・土鏃がみられ、網を使用した漁法もさかんにおこなわれていた。また、丸木舟が各地で発見されており、伊豆大島や南の八丈島にまで縄文時代の遺跡がみられることは、縄文人が外洋航海術をもっていたことを物語っている。



貝塚(千葉県花房貝塚) 台地上に馬蹄形に広がる貝塚の下から、約33軒の住居跡が発見された。住居跡のない中央の広場は、祭や会議の場所であったのだろう。このような集落構成をみると、共同体としての規律の存在がうかがわれる。

3 古墳とヤマト政権

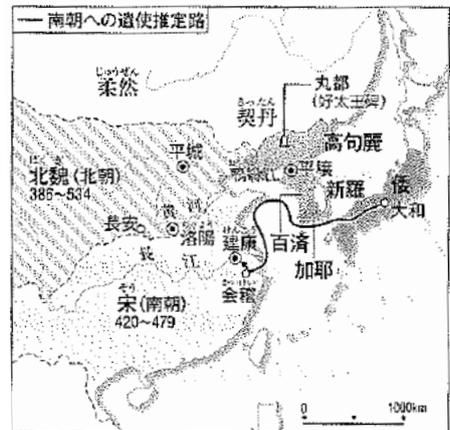
27ページ：東アジア諸国との交渉

倭国は百済や加耶(加羅)からさまざまな技術を学び、また多くの渡来人が海をわたって、多様な技術や文化を日本に伝えた。

< 海洋との関わり >

渡来人

技術や文化の輸入



4~5世紀の東アジア

第2章 立礼国家の形成

遣隋使・遣唐使と東アジア諸国との往来

35-36ページ：遣隋使

44-45ページ：遣唐使

607年に小野妹子が遣隋使として中国に渡った。

8世紀には遣唐使が派遣された。大使のほか、留学生や僧侶も多く渡海し、先進的な政治制度や国際的な文化をもたらした。また新羅、渤海とは民間の使節他、民間商人たちの往来のも多くなった。

< 海洋との関わり >

外交

文化の移入

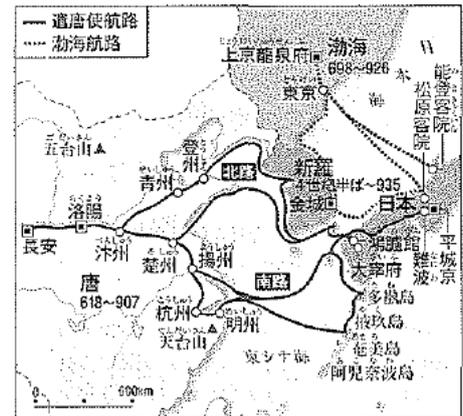
交易

遣隋使の派遣により再開され、『隋書』にみえる600年の派遣に続けて607年には小野妹子が遣隋使として中国に渡った。この時の隋への国書は倭の五王時代とは異なり、中国皇帝に臣属しない形式をとり、楊帝から無礼とされた。

36ページ

朝鮮半島を統一した新羅とも多くの使節が往来したが、日本は国力を充実させた新羅を従属国として扱おうとしたため、ときには緊張が生じた。8世紀末になると遣新羅使の派遣はまばらとなるが、外交とは別に民間商人たちの往来はますますさかんになった。一方、北方の中国東北部などに住む靺鞨族や旧高句麗人を中心に建国された渤海と日本とのあいだでは、親密な使節の往来がおこなわれた。渤海は、唐・新羅との対抗関係から727(神亀4)年に日本に使節を派遣して国交を求め、日本も新羅との対抗関係から、渤海と友好的に通交した。

45ページ



8世紀中頃の東アジアと日唐交通路 遣唐使の航路は、初め北路をとったが、新羅との関係が悪化した8世紀には危険な南路をとった。

45ページ

45ページ

朝鮮半島統一と国防

39ページ：防人

55-56ページ：万葉集 防人の歌

< 海洋との関わり >

沿岸警備

朝鮮半島では、唐と新羅が結んで660年に百濟を、668年には高句麗を滅ぼした。孝徳天皇の没後飛鳥で即位した齊明天皇(皇極天皇の重祚)のもとで、倭は唐・新羅に対し根強い抵抗を示す旧百濟勢力による百濟復興を支援するため大軍を派遣したが、663年に白村江の戦いで唐・新羅連合軍に大敗した。この後、新羅が朝鮮半島の支配権を確立し、676年に半島を統一した。白村江の敗戦を受けて防衛政策が進められ、664年には対馬・壱岐・筑紫に防人と烽がおかれた。また、百濟からの亡命貴族の指導下に、九州の要地を守る水城や大野城・基肆城が築かれ、対馬から大和にかけて古代朝鮮式山城が築かれた。国内政策でも、

39ページ

4 天平文化

55-56ページ：万葉集 防人の歌

57ページ：鑑真

日本の仏教の発展

なく東国の民衆たちがよんだ東歌や防人歌などもある。心情を卒

56ページ

< 海洋との関わり >

沿岸警備と文化

渡海(航海技術の未発達)

文化の移入



鑑真像 鑑真は、たびたびの渡航の失敗にも屈しないで日本に渡来した。像は苦勞の末、盲目になった高僧の慈悲深い姿をよく表現している。(乾漆像、高さ80.1cm、唐招提寺藏、奈良県)

57ページ

第3章 貴族政治と国風文化

1 摂関政治

71ページ 国際関係の変化

新羅・唐と貿易が盛んになる

唐が滅んだが、呉越や宋との商人が来航し、文化の伝来や交易が行われた。

日本人の渡航は禁止されていた。

< 海洋との関わり >

外交

文化の移入

交易



71ページ 10～11世紀の東アジア

3 地方政治の展開と武士

82ページ 地方の反乱と武士の成長

藤原純友の乱

< 海洋との関わり >

海賊

海軍

同じ頃、もと伊予の国司であった藤原純友も、瀬戸内海

乱をおこし(藤原純友の乱)、伊予の国府や大宰府を攻め落としたが、やがて清和源氏の祖である源経基らによって討たれた。こうして東西の反乱(あわせて承平・天慶の乱と呼ばれる)はおさまったが、この乱を通じて朝廷の軍事力の低下が明らかになり、地方武士の組織はいっそう強化された。

82-83ページ

第II部 中世

第4章 中世社会の成立

2 鎌倉幕府の成立

96ページ 源平の争乱

治承・寿永の乱。兵士の水軍、屋島の合戦、壇ノ浦の戦い

壇ノ浦の戦いのあった関門海峡は水路が狭く水深も浅いため、潮の干満による潮位の差が大きい。その結果、潮流の向きが変わるときには非常に速くなることがある。平家側は見方に有利な潮の流れであることを確かめてから攻撃を仕掛け源氏側を追い込んだが、源氏側は平家の猛攻をしのいだ。潮の流れが逆転したことで平家側は不利になり、平家は壇ノ浦に追いつめられた。

海の潮位、潮流の流れが歴史に影響を及ぼした例である。

< 海洋との関わり >

海軍

潮位の変化

とする支配を固めてこれらの動きに対応した。しかし、清盛の突然の死や、畿内・西国を中心とする飢饉などで平氏の基盤は弱体化し、1183(寿永2)年、北陸で義仲に敗北すると、平氏は安徳天皇を奉じて西国に都落ちした。その義仲を、院と結んだ源頼朝は弟の源範頼・義経らの軍を派遣して滅ぼすと、さらに平氏と戦い、摂津の一の谷、讃岐の屋島の合戦を経て、ついに1185(文治元)年に長門の壇の浦で平氏を滅亡させた。

源平の争乱(月は陰暦による。印は幕府設立時)
1177.5 鹿ヶ谷の陰謀
1179.11 平清盛: 後白河法皇を幽閉

96ページ

4 蒙古襲来と幕府の衰退

107-108ページ 蒙古襲来

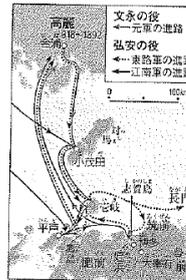
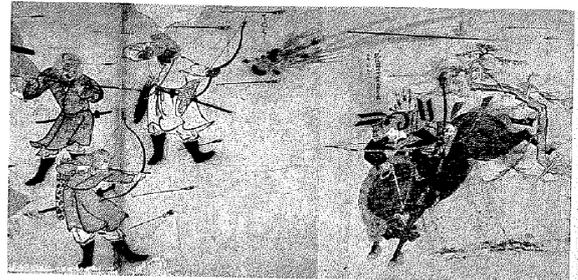
文永の役 (1274), 弘安の役 (1281)

元は対馬・壱岐を攻め、九州博多湾に上陸した。
弘安の役では暴風雨が起きた。

< 海洋との関わり >

海軍

国防 (沿岸警備)



元軍との陸戦の図(蒙古襲来絵巻、部分) 文永の役における陸戦の一場面。日本の騎馬武者は、当時29歳の肥後の竹崎季長である。元軍は「てっほう」と呼ばれる火薬を利用した武器を使用して、日本軍を襲ませた。(宮内庁三の丸 蔵書)



石築地跡(元寇跡)

地を御家人に警備させる異国警回番役を強化するとともに、博多湾沿いに石造の防塁(石築地)を構築させた。そこに南宋を滅ぼした元が、ふたたび日本の征服をめざし、1281(弘安4)年、約14万の大軍を

第5章 武家社会の成長

1 室町幕府の成立

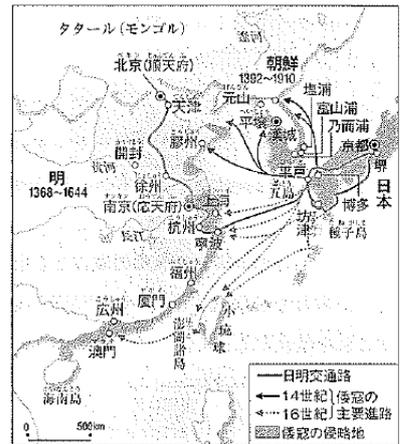
127ページ 東アジアとの交易

倭寇：対馬・壱岐・肥前松浦地方の住民を中心とする海賊集団
足利義満は明に使者を送り (1401) 国交を開いた。
日明貿易 (朝貢貿易) をおこなった。

< 海洋との関わり >

外交

交易



15世紀頃の東アジア

4 戦国大名の登場

151-152ページ 都市の発展と町衆

幕府の衰退とともに、貿易は次第に堺や博多の商人の手に移った。

その頃栄えた港町は、堺、博多の他、坊津、尾道、小浜、敦賀、大津、桑名、大湊、品川などがある。

るものもあった。日明貿易の根拠地として栄えた堺や博多、さらに摂津の平野、伊勢の桑名や大湊などが代表的であり、とくに堺は36人の会合衆、博多は12人の年行司と呼ばれる豪商の合議によって市政が運営され、自治都市の性格を備えていた。

< 海洋との関わり >

港町

交易

第III部 近世

第6章 幕藩体制の確立

1 織豊政権

156-158ページ

ヨーロッパの東アジア進出

南蛮貿易とキリスト教

大航海時代：ヨーロッパ諸国はキリスト教の普及、海外貿易などをめざして、世界に進出した。

鉄砲やキリスト教が日本にも入ってきた。

また、1582年には少年使節をローマ教皇に派遣した(天正遣欧使節)

< 海洋との関わり >

交易

文化・技術の移入

164-165ページ 秀吉の対外政策と朝鮮侵略

1588年 海賊取締令：倭寇などの海賊行為の禁止
一方、南蛮の貿易は奨励

< 海洋との関わり >

海上交通

交易

3 幕藩体制の成立

177-182ページ 江戸初期の外交、鎖国政策、長崎貿易

肥前(長崎)平戸の商館

1613 慶長遣欧使節

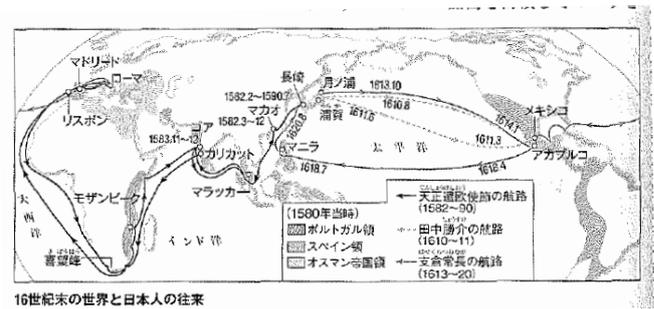
朱印船

オランダ商館、中国の民間商船、朝鮮国、琉球王国、アイヌ民族とのみ交渉

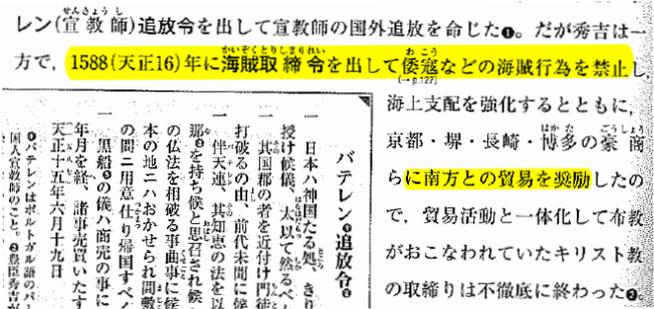
< 海洋との関わり >

交易

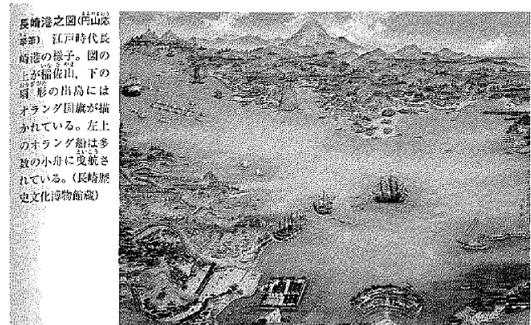
外交



16世紀末の世界と日本人の往来



おもな朱印船渡航地と日本町



3 幕藩社会の構造

192ページ 林業・漁業
タンパク源としての魚介類

< 海洋との関わり >

漁業の発展 (道具、漁法の発展)
魚介類の加工技術の進歩

近世の漁業は、主要な動物性蛋白質源として、また肥料(魚肥)に用いるために魚介類を獲得することをめざして、多様に発達した。海・河川・湖沼で、さまざまな漁法や漁具・漁船を用いておこなわれ、網漁を中心とする漁法の改良と、沿岸部の漁場の開発が進んだ。中世末以来の網漁の技術は、摂津・相泉・紀伊などの上方漁民によって全国に広まった。こうして得られた漁獲物は自給用に消費されるほか、鮮魚のまま近くの都市で売られ、あるいは塩や干しによる保存措置が講じられ、なかでも干し鱈や鰯節などは全国規模で流通した。海辺の漁村では、城下町の魚問屋と取引する網元などの有力者を中心とする漁民たちが、漁場を占有した。こうした漁業や流通には、城下町や三都の魚問屋の資金が大きな役割を果たした。

193 ページ

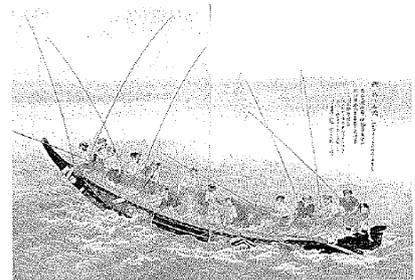
第7章 幕藩体制の展開

2 経済の発展

205ページ 諸産業の発展
漁法の改良, 漁場の開発
捕鯨
製塩業

< 海洋との関わり >

漁業の発展 (道具、漁法の発展)
魚介類の加工技術の進歩, 製塩法の進歩



205 ページ

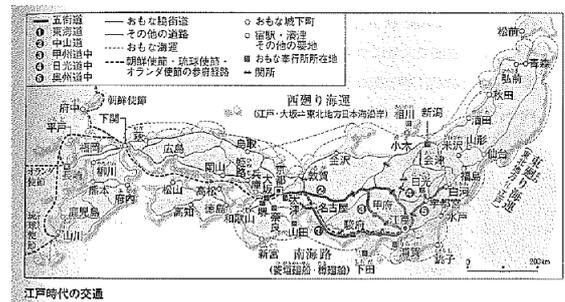
網漁(三重津水産図解、網釣りの図) 志摩国の網釣りの様子。薩摩・土佐・伊豆では、鰯節が全国向けの特産品となった。(三重県誌)

207ページ 交通の整備と発達

大量の物資を輸送するための水上交通の発展
大型の帆船
菱垣廻船, 東廻り海運・西回り海運, 樽廻船, 北前船, 内海船

< 海洋との関わり >

海上交通, 物流



207 ページ

第8章 幕藩体制の動揺

3 幕府の衰退と近代化への道

234-235ページ 鎖国の動揺
ロシアを中心とする外国からの危機
1825年 異国船打払令

< 海洋との関わり >

国防 (沿岸警備)

幕府はアイスとロシアの連携の可能性を危惧した。このようにロシアに警戒心を抱いていたところに、1792(寛政4)年、ロシア使節ラクスマンが根室に来航し、漂流民を屈けるとともに通商を求めた。その際、江戸湾入航を要求されたことが契機となって、幕府は江戸湾と蝦夷地の海防の強化を諸藩に命じた。

235 ページ

4 化政文化

244ページ 学問思想の動き

伊能忠敬「大日本沿海輿地全図」

< 海洋との関わり >

沿岸図

国防（沿岸警備）

246ページ 美術

葛飾北斎「富嶽三十六景」

< 海洋との関わり >

浮世絵における「波」の描き方は、西洋の画家に大きな影響を与えた



「大日本沿海輿地全図」(部分) 伊能忠敬は、最東地から始めて17年間で全国の沿岸を測量した。忠敬の死後、弟子たちが失測図を完成させた。現代の地図と重ねてその正確さをみたい。(国立国会図書館蔵)

244 ページ



富嶽三十六景(神奈川沖浪裏、葛飾北斎) 江戸に鮮魚を運ぶ漁船が大浪に翻弄される。(太田記念美術館蔵、東京都)

246 ページ

第IV部 近代・現代

第9章 近代国家の成立

1 鎖国と幕末の動乱

250-254ページ

米国による寄港地（対清貿易船、捕鯨船）の要請

軍艦（黒船、蒸気船）の来航

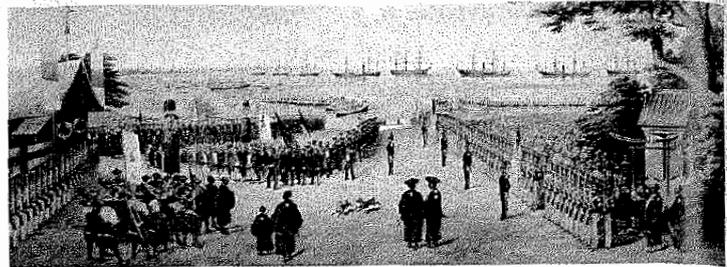
開港：神奈川、長崎、新潟、兵庫

貿易：横浜、長崎、箱館

< 海洋との関わり >

外交、交易

国防（沿岸警備）



ペリーの横浜上陸 1854(安政元)年2月、ペリーは横浜に上陸し、会見所へ向かった。威儀を正した500人の海兵隊と水兵が左右に整列し、日本側は会見所入口で旗・のぼりをもって迎えた。図はそのありさまを描いた石版画。(横浜開港資料館蔵)

252 ページ

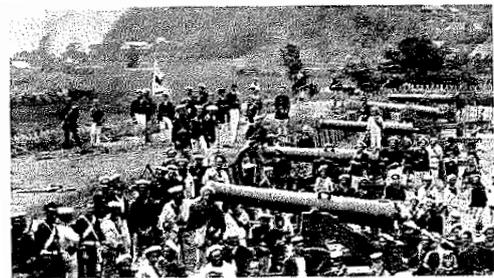
256ページ

四国艦隊下関砲撃事件、薩英戦争

< 海洋との関わり >

外交

国防



四国艦隊による下関砲台の占領 砲台の砲は、長州藩がつくった青銅製の洋式砲。攘夷論では刀での戦いが主張されたが、イギリス軍の記録によれば、イギリス兵の死傷原因は銃砲弾と矢が主で、刀や槍によるものはなかった。(横浜開港資料館蔵)

256 ページ

3 立憲国家の成立と日清戦争

290ページ 日清戦争と三国干渉

1894年日清戦争

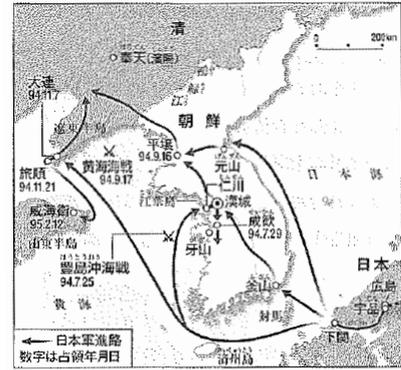
豊島沖海戦

黄海戦：北洋艦隊を撃破

< 海洋との関わり >

海軍、海戦

290ページ



日清戦争要図

4 日露戦争と国際関係

295ページ 日露戦争

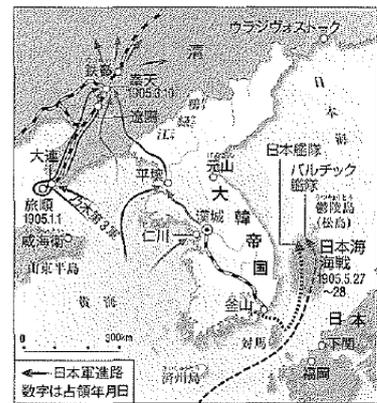
1904年日露戦争

日本海海戦：バルチック艦隊全滅

< 海洋との関わり >

海軍、海戦

295ページ



日露戦争要図

5 近代産業の発展

300ページ 産業革命

海運業奨励策政策

造船奨励法、航海奨励法

日本郵船会社などの遠洋航路

< 海洋との関わり >

造船、航海

運輸

300ページ

また、海運業奨励策^①に助けられて、日本郵船会社^②などがつきつと遠洋航路を開いていった^③。

【紡績・製糸・鉄道】日本の産業革命の中心は、綿糸を生産する紡績業であった。幕末以来、イギリス製綿織品の輸入に圧迫されて、綿花の栽培や綿糸・綿織物の生産は一時衰えた。しかし、綿織物生産は原料系に輸入綿糸を用い、飛び行^④を取り入れて手織機を改良し、農村の間屋創家内工業を中心に、しだいに上向いた。このような綿織物業の回復が、原料系を供給する紡績業の勃興の前提となった。1883(明治16)年に

- ① 当時は金に対する銀の価値が低下していたため、銀本位制をとっていることは、敗者の金本位制国への輸出を増やし、輸入を減らす効果をもった。しかし、金銀相場の変動で貿易関係が不安定になる一方、金本位制国からの資本輸入の点では不利であったため、敗者なみの金本位制がのぞまれていた。
- ② 日本郵船銀行・日本興業銀行・台湾銀行・各府県の農工銀行などが設立された。
- ③ 工場や機械・原料料などの生産手段を所有する資本家が、利潤獲得を目的に資金労働者を雇用しておこなう経済活動が主役である経済体制をいう。
- ④ 1896(明治29)年、政府は紡績業の振興を目的とする造船奨励法・航海奨励法を公布して、蒸気船の建造と外国航路への航路に奨励金を交付することにした。
- ⑤ 日本郵船会社は、1883(明治18)年に三菱会社と平賀半民の共同運輸会社との合併によって設立され、1893(明治26)年にはインドへの東シバニ航路、1896(明治29)年にロンドン・アムステルダム・オーストラリアへの各航路を開いた。

6 第二次世界大戦

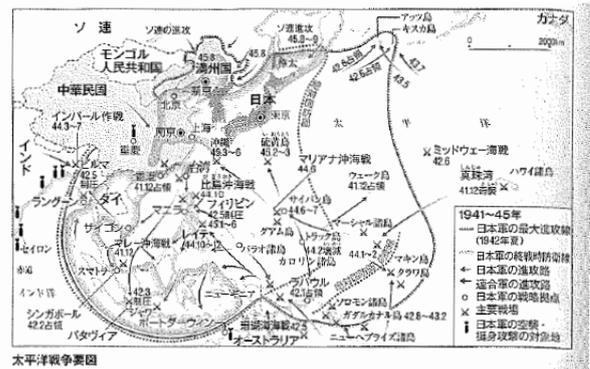
362-365ページ 戦局の展開

< 海洋との関わり >

海軍、海戦

運輸

364ページ



太平洋戦争要図

高等学校地理B教科書における「海」
帝国書院

章	節	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
第I部 様々な地図と地理的技能						
1章 地理情報と地図	2節 地図の種類とその利用	1 地球儀と様々な地図	9	地図の種類と様々な図法	メルカトル図法 正距方位図法 航海	航海(船の運航)と地図の種類
第II部 現在世界の系統地理的考察						
1章 自然環境	1節 世界の地形	1 世界の大地形	27	プレートの運動と様々な境界	海洋プレート 沈み込み帯:日本海溝 海嶺:太平洋,大西洋,インド洋 大陸の裂け目:紅海	プレートテクトニクスと海洋
1章 自然環境	1節 世界の地形	1 世界の大地形	28	プレートの境界と造山帯	海溝, 海嶺の形成	海洋の地形 海溝, 海嶺
1章 自然環境	1節 世界の地形	1 世界の大地形	30	津波の対策	地震と津波, その対策	津波 防災
1章 自然環境	1節 世界の地形	2 外的営力によってつくられる小地形	36-37	海岸に見られる地形	海岸の地形 離水海岸と沈水海岸 サンゴ礁	海岸の地形
1章 自然環境	2節 世界の気候	1 気候の成り立ち	46-51		季節風 海流の分布 水の循環 海水面の上昇・下降 エルニーニョ現象・ラニーニャ現象 など	気候と海洋
1章 自然環境	3節 日本の自然の特徴と人々の生活	1 日本の地形	70-75		プレートと海溝 (日本海溝, 南海トラフ・南西諸島海溝) 日本の気候 (暖流(黒潮, 対馬海流)と寒流(親潮, リマン海流)が日本の気候に影響) 日本の自然災害 (津波, 高潮など) 人間生活と自然環境 (干潟, 埋め立て地)	気候と海洋 災害・防災と海洋
1章 自然環境	4節 環境問題	1 世界の環境問題	76	現代の環境問題	水質汚濁の激しい地域＝沿岸地域	沿岸域の環境問題
1章 自然環境	4節 環境問題	2 さまざまな環境問題	78-79	地球温暖化の影響	海水面の上昇 沿岸域やサンゴ礁の島々の水没の危機 サンゴ礁の衰退:漁業, 観光業への影響	地球温暖化の海洋への影響と人間生活

章	節	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
1章 自然環境	追求	追求:海洋汚染	87		海洋汚染	海洋汚染
2章 資源と産業	2節 世界の農林水産業	3 現代世界の農業の現状と課題	98	グローバル化の中の世界の農業	穀物メジャー(多国籍企業の穀物商社) 輸出入における海運業	海運物流
2章 資源と産業	2節 世界の農林水産業	4 世界の林業・水産業	103	世界の主な漁場 漁業環境の変化と栽培漁業	世界最大の漁獲量の地域:太平洋北西部 近年は中国の漁獲量が増加 冷凍船の発明 遠洋漁業:近年は資源枯渇の懸念から漁獲量は減少 養殖業・栽培漁業	漁業
2章 資源と産業	2節 世界の農林水産業	5 日本の農林水産業	105	日本の水産業	排他的経済水域 遠洋漁業から沖合漁業へ 水産物輸入国(エビ、マグロ)	漁業
2章 資源と産業	2節 世界の農林水産業	水産資源回復への取り組み	105		マグロ類の畜養 ワシントン条約による大西洋産・地中海産くるまぐる 商業取引の禁止の議論 完全養殖技術の開発(日本)	水産資源回復
2章 資源と産業	6節 世界の工業	1 工業の発達と立地	132	工業の立地	重工業では 臨海部:輸出入に便利で、かつ市場に隣接 日本の大平洋ベルト	海運業 物流
2章 資源と産業	7節 第3次産業	2 世界の観光業	147-148		リゾート地としてのビーチ 海洋レジャー エコツーリズム(例:西表島)	海洋レジャー
2章 資源と産業	7節 第3次産業	世界遺産登録と観光開発の功罪	148			
2章 資源と産業	8節 世界を結ぶ交通・通信	1 世界の交通網	151	さまざまな交通機関 [1]水上交通	船舶(タンカーなどの大型船舶も含む) 中継貿易港(香港、シンガポールなど) 運河(パナマ運河、スエズ運河)	海運業 交易
3章 人口, 村落・都市	4節 都市・居住問題	1 世界の都市・住居問題	188	先進国の都市問題解決のために	港湾都市部のウォーターフロント開発 日本:台場, 汐留, みなとみらい21(横浜)など	港湾都市 観光
4章 生活文化, 民族・宗教	3節 現代世界の国家		205	国家と領域	領海:普通は沿岸から12海里 排他的経済水域	排他的経済水域

章	節	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
4章 生活文化, 民族・宗教	4節 民族・領土問題	2 民族・領土からとらえた日本	214		排他的経済水域	排他的経済水域
第III部 現代世界の地誌的考察						
2章 現代世界の諸地域	10節 ラテンアメリカ	1 ヨーロッパ社会の影響が強い文化	303	大西洋上の領域	スペインとポルトガル 1494年トルデシヤリス条約	領海
2章 現代世界の諸地域	11節 オセアニア	1 オセアニアの移民の歴史と多文化社会	310		島嶼地域 サンゴ礁(グレートバリアリーフ)	島嶼部 サンゴ礁
3章 現代世界と日本			319	日本が抱える地理的な諸課題	領土の管理 沖ノ島島;海水面の上昇や波浪などの影響で水没の危機	領土, 領海

新詳地理B

帝国書院 平成24年3月 文部科学省検定済, 平成26年1月印刷・発行

46 帝国 地B-301

章	節	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
第I部 様々な地図と地理的技能						
1章 地理情報と地図	2節 地図の種類とその利用	1 地球儀と様々な地図	9	地図の種類と様々な図法	メルカトル図法 正距方位図法 航海	航海(船の運航)と地図の種類
第II部 現在世界の系統地理的考察						
1章 自然環境	1節 世界の地形	1 世界の大地形	27	プレートの運動と様々な境界	海洋プレート 沈み込み帯: 日本海溝 海嶺: 太平洋, 大西洋, インド洋 大陸の裂け目: 紅海	プレートテクトニクスと海洋
1章 自然環境	1節 世界の地形	1 世界の大地形	28	プレートの境界と造山帯	海溝, 海嶺の形成	海洋の地形 海溝, 海嶺
1章 自然環境	1節 世界の地形	1 世界の大地形	30	津波の対策	地震と津波, その対策	津波 防災
1章 自然環境	1節 世界の地形	2 外的営力によってつくられる小地形	36-37	海岸に見られる地形	海岸の地形 離水海岸と沈水海岸 サンゴ礁	海岸の地形
1章 自然環境	2節 世界の気候	1 気候の成り立ち	46-51		季節風 海流の分布 水の循環 海水面の上昇・下降 エルニーニョ現象・ラニーニャ現象 など	気候と海洋
1章 自然環境	3節 日本の自然の特徴と人々の生活	1 日本の地形	70-75		プレートと海溝 (日本海溝, 南海トラフ・南西諸島海溝) 日本の気候 (暖流(黒潮, 対馬海流)と寒流(親潮, リマン海流)が日本の気候に影響) 日本の自然災害 (津波, 高潮など) 人間生活と自然環境 (干潟, 埋め立て地)	気候と海洋 災害・防災と海洋
1章 自然環境	4節 環境問題	1 世界の環境問題	76	現代の環境問題	水質汚濁の激しい地域＝沿岸地域	沿岸域の環境問題
1章 自然環境	4節 環境問題	2 さまざまな環境問題	78-79	地球温暖化の影響	海水面の上昇 沿岸域やサンゴ礁の島々の水没の危機 サンゴ礁の衰退: 漁業, 観光業への影響	地球温暖化の海洋への影響と人間生活
1章 自然環境	追求	追求: 海洋汚染	87		海洋汚染	海洋汚染
2章 資源と産業	2節 世界の農林水産業	3 現代世界の農業の現状と課題	98	グローバル化の中の世界の農業	穀物メジャー(多国籍企業の穀物商社) 輸出入における海運業	海運 物流
2章 資源と産業	2節 世界の農林水産業	4 世界の林業・水産業	103	世界の主な漁場 漁業環境の変化と栽培漁業	世界最大の漁獲量の地域: 太平洋北西部 近年は中国の漁獲量が増加 冷凍船の発明 遠洋漁業: 近年は資源枯渇の懸念から漁獲量は減少 養殖業・栽培漁業	漁業

新詳地理B

帝国書院 平成24年3月 文部科学省検定済, 平成26年1月印刷・発行

46 帝国 地B-301

章	節	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
2章 資源と産業	2節 世界の農林水産業	5 日本の農林水産業	105	日本の水産業	排他的経済水域 遠洋漁業から沖合漁業へ 水産物輸入国(エビ、マグロ)	漁業
2章 資源と産業	2節 世界の農林水産業	水産資源回復への取り組み	105		マグロ類の畜養 ワシントン条約による大西洋産・地中海産くろまぐろ商業取引の禁止の議論 完全養殖技術の開発(日本)	水産資源回復
2章 資源と産業	6節 世界の工業	1 工業の発達と立地	132	工業の立地	重工業では 臨海部:輸出入に便利で、かつ市場に隣接 日本の大太平洋ベルト	海運業 物流
2章 資源と産業	7節 第3次産業	2 世界の観光業	147-148		リゾート地としてのビーチ 海洋レジャー エコツアー ム(例:西表島)	海洋レジャー
2章 資源と産業	7節 第3次産業	世界遺産登録と観光開発の功罪	148			
2章 資源と産業	8節 世界を結ぶ交通・通信	1 世界の交通網	151	さまざまな交通機関 [1]水上交通	船舶(タンカーなどの大型船舶も含む) 中継貿易港(香港、シンガポールなど) 運河(パナマ運河、スエズ運河)	海運業 交易
3章 人口, 村落・都市	4節 都市・居住問題	1 世界の都市・居住問題	188	先進国の都市問題解決のために	港湾都市部のウォータフロント開発 日本:台場, 汐留, みなとみらい21(横浜)など	港湾都市 観光
4章 生活文化, 民族・宗教	3節 現代世界の国家		205	国家と領域	領海:普通は沿岸から12海里 排他的経済水域	排他的経済水域
4章 生活文化, 民族・宗教	4節 民族・領土問題	2 民族・領土からとらえた日本	214		排他的経済水域	排他的経済水域
第III部 現代世界の地誌的考察						
2章 現代世界の諸地域	10節 ラテンアメリカ	1 ヨーロッパ社会の影響が強い文化	303	大西洋上の領域	スペインとポルトガル 1494年トルデシヤリス条約	領海
2章 現代世界の諸地域	11節 オセアニア	1 オセアニアの移民の歴史と多文化社会	310		島嶼地域 サンゴ礁(グレートバリアリーフ)	島嶼部 サンゴ礁
3章 現代世界と日本			319	日本が抱える地理的な諸課題	領土の管理 沖ノ鳥島:海水面の上昇や波浪などの影響で水没の危機	領土, 領海

新詳地理 B

帝国書院 平成 24 年 3 月 文部科学省検定済, 平成 26 年 1 月印刷・発行
46 帝国 値 B-301

第 I 部 様々な地理と地理的技能

第 1 章 地理情報と地図

2 節 地図の種類とその利用

1 地球儀と様々な地図

● 9 ページ：地図の種類と様々な図法

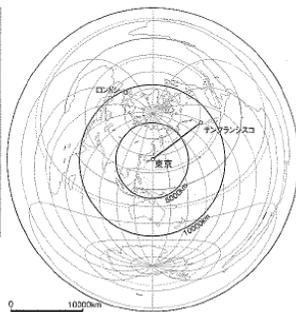
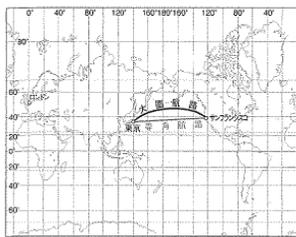
メルカトル図法

正距方位図法

航海

< 海洋との関わり >

航海（船の運航）と地図の種類



法)である。図④は、1569年にフランドル地方出身のメルカトルが考案した正角図で、この図法は**メルカトル図法**とよばれる。高緯度ほど緯線・経線の長さが拡大されて、緯度60度で、赤道に対するそれぞれの比が2倍になり、面積は4倍となる。**羅針盤を利用する航海に適する図法で、任意の2点間を結ぶ直線は等角航路になる。**図⑤は、図の中心からの距離と方位が正しく表されるよう作図された地図で、この図法は**正距方位図法**とよばれる。**図の中心からの最短距離(大圓航路)が直線で表されるが、周縁部で形や面積のひずみが大きくなる。**世界全図の場合、中心から外周円(中心に対する対蹠点)までの距離は、地球半周にあたる約2万kmとなる。

このほか、正積図としてサンソン図法、モルワイデ図法、そしてこの両者を緯度40度44分で接合し、海洋部を断裂させたホモロサイン図法(グード図法)などがある。正積図は、分布図の基図として利用されるなど、世界全図として最も一般的な図法といえる。

いつそう均等的な地理的知識の獲得が可能となる。

用語解説
①**等角航路** 船角を一定に保って進む航路。道まわりとなっても、確実に目的地に到着できる。
②**大圓航路** 地球上の最短コース。大円航路ともいう。

Check

- ①メルカトル図法が航海に適している理由を説明してみよう。
- ②大圓航路で航海をした場合、どのような不都合が生じるか説明してみよう。

9 ページ

第 II 部 現在世界の系統地理的考察

第 1 章 自然環境

1 節 世界の地形

1 世界の大地

● 27 ページ：プレートの運動と様々な境界

海洋プレート

沈み込み帯：日本海溝

海嶺：太平洋、大西洋、インド洋

大陸の裂け目：紅海

< 海洋との関わり >

プレートテクトニクスと海洋

プレートの運動とさまざまな境界 大陸・大山脈・列島・海溝などの大規模な地形を大地形という。大地形の形成や世界各地で生じている地殻変動や火山活動は、プレートの相対運動によって生じた内的営力が原動力であると考えられる。このような考え方をプレートテクトニクスといい、1970年代に確立された。地球の表層は、厚さ100kmぐらいかたい岩石でできたプレートでおおわれている。プレートは十数枚に分かれていて、それぞれのプレートは、海面をおおいつくした流水のブロックのようであるが、流水よりもはるかにゆっくりと水平方向に滑り動いている。このため、となり合うプレートどうしの境界には、大きな力がはたらく。

力の向きとプレートの動きに着目すると、プレートの境界は次の3種類に分類できる。となり合う二つのプレートが、押し合って近づく狭まる境界、引っ張り合って遠ざかる広がる境界、すれちがう方向に力がはたらいてすれ動くずれる境界である。**狭まる境界は、さらに、日本海溝のように海洋プレートが他のプレートの下へ沈み込んでいる境界(沈み込み帯)と、アルプス山脈やヒマラヤ山脈のように大陸プレートどうしが衝突している境界(衝突帯)とに分かれる。****広がる境界は、おもに太平洋・大西洋・インド洋の海底にあり、海嶺とよばれる海底大山脈をなしている。海嶺では地球内部からマグマがわき出して、海洋プレートを左右に押し広げている。陸上では、広がる境界は、東アフリカの大地溝帯や紅海のような大陸の裂け目をなし、大陸プレートを押し広げている。ずれる境界は、その**

用語解説
①**プレート** 大陸では普通30~40km、海洋底では約10kmの厚さをもつ地殻と、その下のマンツルの最上部数十kmの部分。マンツルの最上層は、地殻と同様に冷えてかたくなっているが、プレートより強い部分は熱くやわらかいため、力を長時間受け続けると、ゆっくりと流動する。

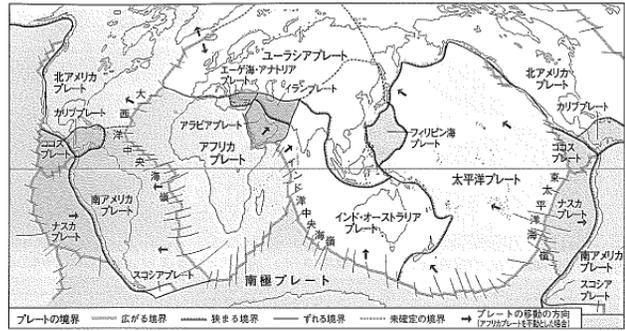
② プレートには、大陸プレートと海洋プレートがあり、それぞれ大陸と海洋の土台をなしている。海洋プレートのほうが密度が高くて重く、厚さが薄いため、海洋プレートは大陸プレートの下に沈み込む。



①サンアンドレアス断層(アメリカ合衆国 カリフォルニア)

● 28ページ プレートの境界と造山帯
海溝、海嶺の形成

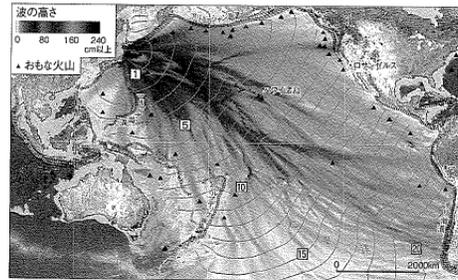
< 海洋との関わり >
海洋（海底）の地形
海溝、海嶺



28 ページ

● 30ページ 津波への対策
地震と津波、その対策

< 海洋との関わり >
地震
津波
防災



④東北地方太平洋沖地震による津波の高さと到達時間 (NOAA) 池に小石を投げ入れると、波が周囲へ広がっていくように、震源を中心として津波が太平洋を伝播したようすが読み取れる。津波の高さは震源から離れるほど低くなるが、日本から見て地球の反対側のチリ沖でも高さ数十cmの津波が観測された。

*数字は最初の津波が到達するまでの時間

30 ページ

2 外的営力によってつくられる小地形

● 36-37ページ 海岸に見られる地形
海岸の地形
離水海岸と沈水海岸
サンゴ礁

< 海洋との関わり >
海岸の地形

①海岸にみられる地形の模式図

②海岸にみられる地形

海岸では、潮の干満・波・沿岸流などによって侵食・運搬・堆積作用がはたらくため、地形が変化する。とくに砂浜海岸では地形変化が著しい。また、長期的には、海へ注ぐ河川の作用や海面変動、地殻変動の影響を受けて、海岸にはさまざまな地形が発達する。

内湾では、潮ちねで海岸近くに泥や砂が堆積し、引き潮時に干潟となる。干潟には多くの小動物やそれらを食べる鳥などが集まり、豊かな生態系が形成される。河川が運搬してきた砂や、近くの海岸が侵食されて生じた礫が沿岸流で運ばれて堆積すると砂浜や砂州ができる。砂州が長く伸びると、入り江がふさがったり、陸と島がつながって陸繋島ができる。また、鳥取砂丘や中田島砂丘のように、砂が風に吹き寄せられて高さ10m以上の砂丘ができることもある。波の侵食力が強いと、陸地は急速に侵食され、海食崖が鋭く単面海岸をつくることもある。また、サンゴ礁などのように生物活動も海岸の地形をつくる。

③離水海岸と沈水海岸

海底が干上がることと堆水とよぶ。土地が隆起している地域や海面が低下する際には、離水海岸が発達する。離水海岸では水深が浅くなる傾向があり、波の作用によって海岸近くの海底は侵食を受けやすい。このため、崖状がみられたり、古い地層や岩盤が露出したりすることが多い。平坦な海底が堆水すると海岸平野になる。海岸平野には階段状の海岸段丘が発達することがある。これらの段丘の表面は、平坦な海底が順に堆水

トピック サンゴ礁

サンゴには、水深100mよりも深い範囲にすみ、枝状に成長する硬骨サンゴと、堅殻骨・熱帯の水深が深く海水の透明度が高い海岸にすみ、塊をつくる造礁サンゴがある。サンゴ礁は、珊瑚・藻類・菌類に分類できる。珊瑚の骨々からなるトンガやツリル、モルディブなどの骨々は観光地としての人気も高い。しかし、これらの島は標高も低く、高波などの被害を受けやすく、地球温暖化によって海面が上昇し、水没する危険もある。サンゴ礁は、陸地や島を取り囲ぐように発達し、魚介類のすみかとなるが、気候変動に伴うサンゴの白化の進行が懸念されている。

④サンゴ礁の発達

まず島をふちどる環礁が発達する。環礁が完成するまでには環礁に発達し、島と島の間にラグーンをもつ環礁になる。やがて環礁が沈み、環礁のサンゴ礁がなくなる(没環礁)。一方、隆起地帯では、サンゴ礁が隆起して海岸平野をつくることも多い。

⑤サンゴ礁の環(トンガ, 2003年撮影)

⑥フィヨルド(ノルウェー, 2009年撮影)

してきた地形であり、通常は高い段丘帯ほど堆水時間が古くなる。堆水とは逆に、起伏の大きい山地など海面下に沈むことを沈水とよぶ。土地の沈降や海面の上昇によって、沈水海岸が発達する。沈水海岸では、河川沿いの低地に海水がはいり込み、入り江(エスチュアリ, 三角江)ができる。三陸海岸や長崎県西部の海岸などには、入り江が連続するリアス海岸や多くの高ヶが浮かぶ多島海がみられる。ノルウェーやチリ南部のような高緯度地方には、氷河が形成したり氷河に海水が浸入して、陸地に深くはいり込んだフィヨルドとよばれる入り江が発達している。リアス海岸やフィヨルドでは平地が少なく、内陸との交通も不便であるが、内湾では波がおだやかなため、養殖業や良港が発達する。

Check

①海原にみられる特徴的な地形について、離水海岸と沈水海岸に分けて説明してみよう。
②地形図を参照し、特徴的な海岸地形を探してみよう。

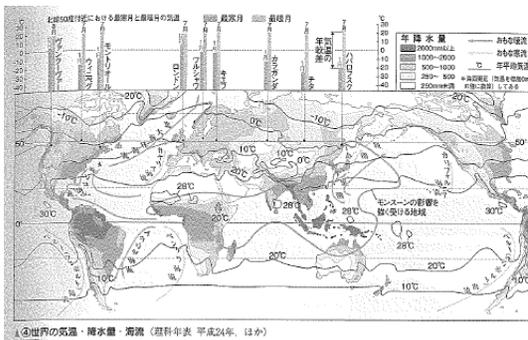
1節 世界の気候

1 気候の成り立ち 46-51ページ

- 47ページ 季節風
 - 海と陸の比熱・熱容量の違い
- 48ページ 海流の分布
- 49ページ 水の循環
- 50ページ 長期的な気候変動
 - 海水面上昇・下降
- 51ページ エルニーニョ現象・ラニーニャ現象
 - 海水表面温度の上昇・下降

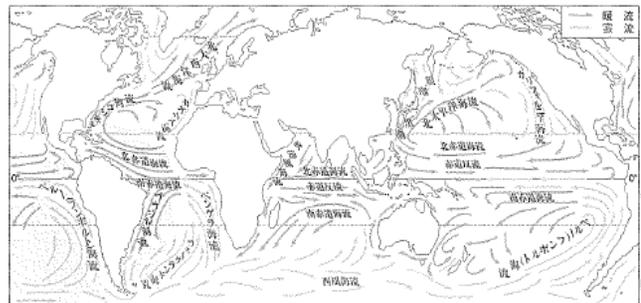
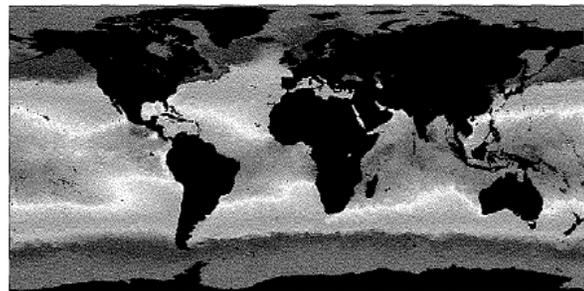
< 海洋との関わり >
気候と海洋

世界の気温・降水量・海流



56 ページ

世界の海流



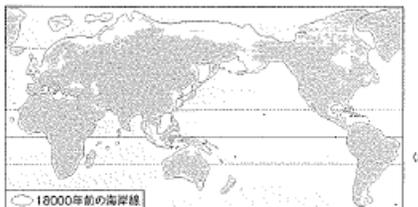
48 ページ

水の循環



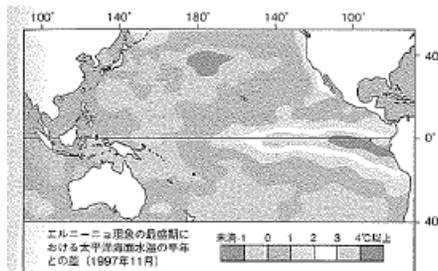
49 ページ

最終氷期の海岸線



50 ページ

エルニーニョ現象



51 ページ

海洋の循環

プラス⑦
海洋の大循環
海洋の表面は海流が流れているが、これは海面から数百mまでの浅い層だけである(風成海流)。これに対し、数百mより深い層では、地球規模の大きな流れがあり、深層海流とよばれる。深層海流は、北大西洋や南極海で沈み込んでから表面に出てくるまで、1000年以上かかるといわれている(熱成海流)。深層海流の速度は毎時数mと遅い。

48 ページ

2章 資源と産業

2節 世界の農林水産業

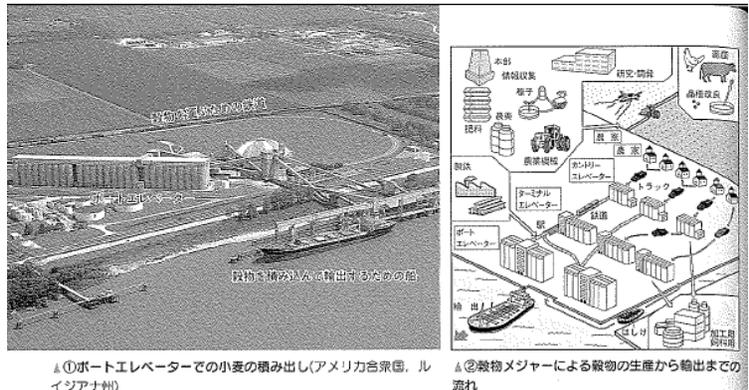
3 現代世界の農業の現状と課題

- 98ページ グローバル化の中の世界の農業
穀物メジャー（多国籍企業の穀物商社）
輸出入における海運業

< 海洋との関わり >

海運

物流



98 ページ

4 世界の林業・水産業

- 103ページ 世界の主な漁場
世界最大の漁獲量の地域：太平洋北西部
近年は中国の漁獲量が増加
- 103ページ 漁業環境の変化と栽培漁業
冷凍船の発明
遠洋漁業：近年は資源枯渇の懸念から漁獲量は減少
養殖業・栽培漁業



103 ページ

< 海洋との関わり >

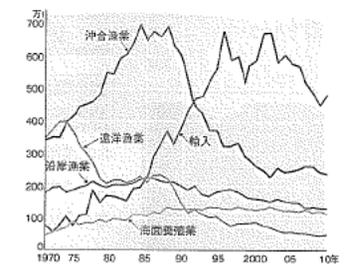
漁業

5 日本の農林水産業

- 105ページ 日本の水産業
排他的経済水域
遠洋漁業から沖合漁業へ
水産物輸入国（エビ、マグロ）

< 海洋との関わり >

漁業



▲⑥日本の漁業種類の漁獲量と魚介類輸入量の推移（平成22年漁業・養殖業生産統計年報、ほか）

105 ページ

- 105ページ 水産資源回復への取り組み
マグロ類の畜養
ワシントン条約による大西洋産・地中海産くろまぐろ商業取引の禁止の議論
完全養殖技術の開発（日本）

< 海洋との関わり >

水産資源回復

トピック 水産資源回復への取り組み

日本はまぐろの世界一の消費国で、消費量の約半分は海外で漁獲されたものを輸入している。今日、世界の海域によっては、漁獲量の規制などが十分に行われず、水産資源の枯渇が懸念されている。地中海やオーストラリアでは、日本で高級まぐろとして人気のある、くろまぐろ・みなみまぐろの天然ものをとらえ、いけすで育ててあぶらをとせる畜養がさかんになっているが、2010年のワシントン条約締約国会議で、大西洋・地中海産くろまぐろの国際商業取引禁止が議論されるなど、漁獲の規制・禁止を求める声が強くなっている。こうしたまぐろの資源問題に対し、日本は、人工的に育てた成魚の卵を、再び孵化させて成魚

▲④地中海のまぐろ漁（シチリア島近海、2006年撮影）

にする完全養殖技術の開発に取り組みました。まだ経済性の問題など課題は多いが、この方法が軌道にのれば、天然まぐろの資源保護・回復への大きな貢献が期待できる。

* 産卵のしかたは、天然のまぐろの産卵を参考にして、1973年に確立された。

105 ページ

6節 世界の工業

1 工業の発達と立地

●132ページ 工業の立地

重工業では
臨海部：輸出入に便利で、かつ市場に隣接
日本の大太平洋ベルト

< 海洋との関わり >

海運業
物流

132 ページ



水島コンビナート(岡山県, 高松市, 2007年撮影)

7節 第3次産業

2 世界の観光業

●147-148ページ

リゾート地としてのビーチ
海洋レジャー
エコツーリズム (例：西表島)

< 海洋との関わり >

海洋レジャー

147 ページ

観光の国際化と多様化

生活が豊かになり、余暇時間が増加すると、国や地域をこえた観光がさかになる。このような観光には、宿泊施設や交通機関などが必要になるので、これらの新しい需要が生まれ、経済活動が引き起こされる。世界的にみると、観光活動には地域差があり、観光客の移動は、一般に経済的にゆとりのある先進国間で多い。一方、発展途上国では、地域の経済や住民の生活が、先進国からやってくる観光客に大きく依存する場面もある。

観光にはさまざまな形態がある。ヨーロッパの**パクス**のように、休暇にめくまれた観光地に長期滞在する保養型の観光もあれば、個人あるいは団体で、温泉や名所・旧跡をめぐるツアー型の観光も人気がある。大型のテーマパークは、若い世代を中心に、娯楽型の観光を楽しむ人々にぎわう。最近では、都市に住む人々が豊かな自然に親しむことを目的とした、**グリーンツーリズム**という新しい形の観光が人気を集めている。また、環境問題への関心が高まるなかで、**エコツーリズム**とよばれる、自然環境をそこわずに行う観光もさかんになっている。

とともに、観光の多様化や、観光による地域の活性化をみていこう。

グリーンツーリズム 農村地域において、その自然・文化や人々の交流を楽しむ、滞在型の体験型観光。

エコツーリズム 地域の自然および歴史・文化などを生かした観光で、資源の保護・保全を両立させることで、環境への負担を減らし、地域振興をめざす観光。

④エコツーリズムを楽しむ人々 (コスタリカ, 2009年撮影)

世界遺産登録と観光開発の功罪

●148ページ

小笠原諸島
海洋島 (一度も大陸と繋がったことがない)
生物に固有種が多い
人・物の出入りが多くなることで「外来種問題」が懸念される

< 海洋との関わり >

海洋レジャー
外来種問題, 生態系の保全

148 ページ

トピック 世界遺産登録と観光開発の功罪

①日本の世界遺産 (ユネスコ資料)

8節 世界を結ぶ交通・通信

1 世界の交通網

●151ページ さまざまな交通機関 [1] 水上交通

船舶 (タンカーなどの大型船舶も含む)
中継貿易港 (香港, シンガポールなど)
運河 (パナマ運河, スエズ運河)

< 海洋との関わり >

海運
交易

151 ページ

旅客輸送 (億人・km)		貨物輸送 (億t・km)	
日本	13,710	自動車 0.2	航空 0.2
アメリカ合衆国	77,232	自動車 63.9	航空 32.0
イギリス	7,899	自動車 63.9	航空 32.0
フランス	8,817	自動車 63.9	航空 32.0
ドイツ	10,546	自動車 63.9	航空 32.0

④おもな国の貨物輸送と旅客輸送の内訳 (2009年) (国土交通省資料)

国によって輸送手段の内訳にはどのような違いがあるだろうか。また、同じ国でも旅客と貨物ではどのような違いがみられるかに留意しよう。

プラス

パナマ運河とスエズ運河

パナマ運河とスエズ運河は、それぞれパナマ地峡とスエズ地峡に建設された2大運河である。パナマ運河は、地峡の中央部の標高が高いため、途中3か所に閘門とよばれる水門を設け、水位を調節することで、船舶の航行を可能にしている。このような運河は閘門式運河とよばれる。一方、スエズ運河は地中海と紅海の水位の差があまりないため、水門なしでの航行が可能である。このような運河は水平式運河とよばれる。

3章 人口, 都市・居住問題

4節 都市・居住問題

1 世界の都市・居住問題

- 188ページ 先進国の都市問題解決のために
 港湾都市部のウォーターフロント開発
 日本：台場, 汐留, みなとみらい21 (横浜) など

< 海洋との関わり >
 港湾都市
 観光

用語解説
ウォーターフロント開発
 物流や産業構造の変化などによって使われなくなった、水辺の倉庫街や工場跡などの広大な土地に、住宅やショッピングセンター、娯楽施設などを建設する開発。日本では、東京湾岸の台場、汐留、横浜のみなとみらい21、幕張新都心などがその典型である。

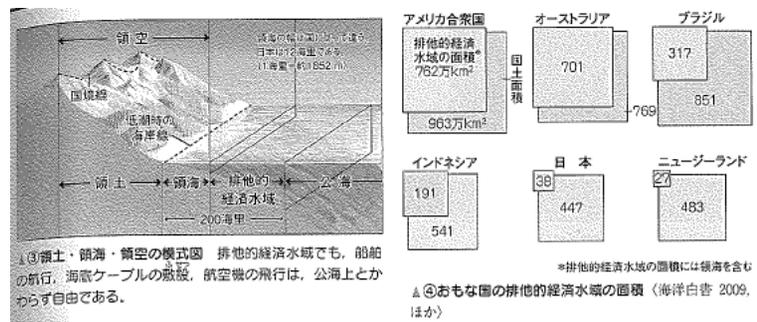
188 ページ

4章 生活文化, 民族・宗教

3節 現代世界の国家

- 205ページ 国家と領域
 領海：普通は沿岸から12海里
 排他的経済水域

< 海洋との関わり >
 領海
 排他的経済水域



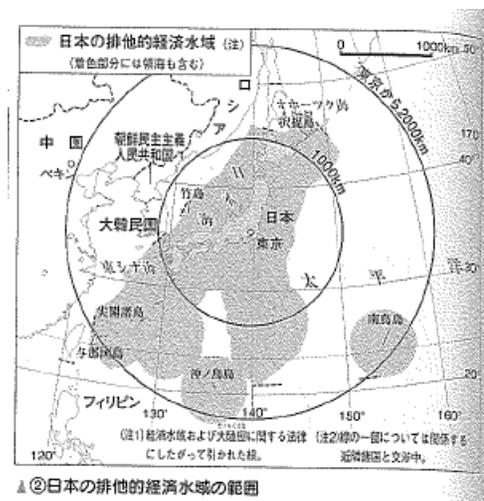
205 ページ

4節 民族・領土問題

2 民族・領土からとらえた日本

- 214ページ 日本の領土問題
 排他的経済水域

< 海洋との関わり >
 排他的経済水域



214 ページ

第 III 部 現在世界の地誌的考察

2 章 現代社会の諸地域

1 0 節 ラテンアメリカ

1 ヨーロッパ社会の影響が強い文化

● 3 0 3 ページ 大西洋上の領域

スペインとポルトガル

1494 年トルデシヤリス条約

< 海洋との関わり >

領海



303 ページ

1 1 節 オセアニア

1 オセアニアの移民の歴史と多文化社会

● 3 1 0 ページ 一つの大陸と太平洋の島々

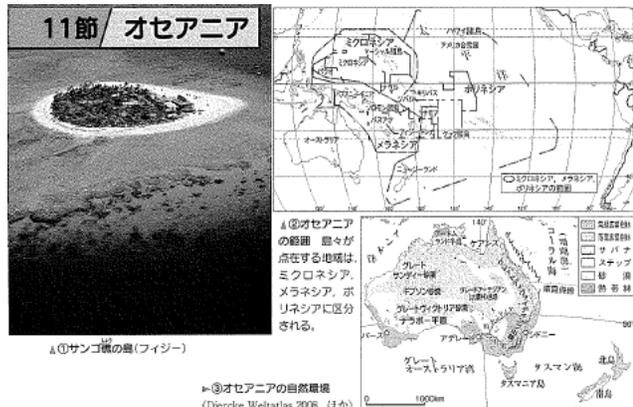
島嶼地域

サンゴ礁 (グレートバリアリーフ)

< 海洋との関わり >

島嶼部

サンゴ礁



310 ページ

3 章 現代世界と日本

● 3 0 0 ページ 日本が抱える地理的な諸課題

領土の管理

沖ノ鳥島

海水面の上昇や波浪などの影響で水没の危機

< 海洋との関わり >

領土, 領海



▲⑤領土の管理(東京都, 小笠原村, 沖ノ鳥島, 2005年撮影)日本の最南端にある沖ノ鳥島は、日本の領土面積を上まわる排他的経済水域を有する。国が維持管理している。

319 ページ

高等学校政治・経済
教科書における「海」
実務出版

編章	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
第1編 現代の政治					
第1章 民主政治の基本原理	2 政治と法	7	新時代の政治	国家と領域(領土, 領海, 領空) 領海(12海里) 排他的経済水域(200海里) 公海	領域
第2編 現代の経済					
第3章 現代経済と福祉の向上	4 環境保全と公害の防止	142	日本の公害	四大公害 (水俣病, 新潟水俣病)	海洋汚染
第3章 現代経済と福祉の向上	4 環境保全と公害の防止	144-146	地球規模の環境問題	地球温暖化:海水温の上昇 生物多様性の減少:海洋生物も減少 水資源の減少:海水の淡水化	海洋環境 海洋生物
第3章 現代経済と福祉の向上	4 環境保全と公害の防止	147	環境保全の課題	環境ホルモン:沿岸生物への影響	海洋環境 海洋生物
第3編 現代社会の諸問題					
5 農業, 農村と食料, 環境問題		191		干拓地の自然再生 例)三重県では干潟や藻場の再生に取り組んでいる。特に英虞湾では一度干拓された場所を干潟に戻す活動が進められている。 一方, 有明海の諫早湾干潟事業では, 農地の確保と高潮などの防災目的から諫早湾を堤防で閉め切って干拓を行っが, 堤防外側では海苔が不作となったことから, 沿岸漁業者が工事差し止めの訴訟を起こした。	国土保全
10 地球環境問題		201		地球温暖化による海面上昇により, 国土が沈む島	国土保全

高校 政治・経済 新訂版

実教出版 平成19年3月 検定済, 平成26年1月印刷・発行

7 実況 政経023

編	章	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
第1編 現代の政治						
	第1章 民主政治の基本原則	2 政治と法	7	新時代の政治	国家と領域(領土, 領海, 領空) 領海(12海里) 排他的経済水域(200海里) 公海	領域
第2編 現代の経済						
	第3章 現代経済と福祉の向上	4 環境保全と公害の防止	142	日本の公害	四大公害 (水俣病, 新潟水俣病)	海洋汚染
	第3章 現代経済と福祉の向上	4 環境保全と公害の防止	144-146	地球規模の環境問題	地球温暖化: 海水温の上昇 生物多様性の減少: 海洋生物も減少 水資源の減少: 海水の淡水化	海洋環境 海洋生物
	第3章 現代経済と福祉の向上	4 環境保全と公害の防止	147	環境保全の課題	環境ホルモン: 沿岸生物への影響	海洋環境 海洋生物
第3編 現代社会の諸問題						
	5 農業, 農村と食料, 環境問題		191		干拓地の自然再生	国土保全
	10 地球環境問題		201		地球温暖化による海面上昇により, 国土が沈む島	国土保全

高校 政治・経済 新訂版

実教出版 平成 19 年 3 月 検定済, 平成 26 年 1 月印刷・発行

7 実況 政経 023

第 1 編 現代の政治

第 1 章 民主政治の基本原則

2 政治と法

7 ページ 政治と権力

国家と領域 (領土, 領海, 領空)

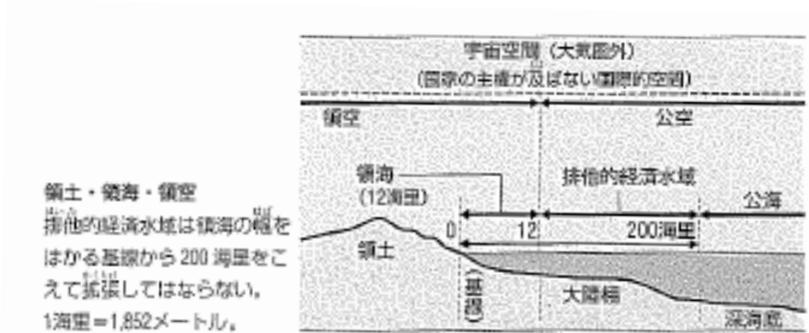
領海 (12 海里)

排他的経済水域 (200 海里)

公海

< 海洋との関わり >

領域



7 ページ

第 2 編 現代の政治

第 3 章 現代経済と福祉の向上

4 環境保全と公害の防止

142 ページ 日本の公害

四大公害

(水俣病, 新潟水俣病)

< 海洋との関わり >

海洋汚染

	発祥日・判決日	原告	被告	判決内容・賠償額	訴訟など
水俣病	1969.6.14 1973.3.20 熊本地裁	患者・家族 漁民138人	チッソ	原告勝訴 約9億3730万円	水俣市 工場廃止中の汚 染水汲
イタイイタイ病	1968.3.9 1971.6.30 (第1審) 富山地裁 1972.8.9 (第2審) 名古屋高裁	患者・遺族 33人	三井金属 鉱業	原告勝訴 約1億4320万円	神通川流域 亜鉛鉱山跡地 のカドミウム (科学的に認定)
新潟水俣病	1967.6.12 1971.9.29 新潟地裁	患者・家族・ 遺族77人	昭和精工	原告勝訴 約2億7025万円	阿賀野川流域 工場廃止中の汚 染水汲
四日市ぜんそく	1967.9.1 1972.7.24 津地裁	患者・遺族 12人	昭和四日 市石油な ど6社	原告勝訴 約8,831万円	四日市市 工場跡地の硫黄・ 亜硫酸化物

4大公害訴訟

142 ページ

144 - 145 ページ 地球規模の環境問題

地球温暖化: 海水温の上昇

生物多様性の減少: 海洋生物も減少

水資源の減少 (海水の淡水化)

< 海洋との関わり >

海洋環境

147 ページ 環境保全の課題

環境ホルモ: 沿岸生物への影響

< 海洋との関わり >

海洋環境

海洋生物

第3編 現代社会の諸問題

5 農業，農村と食料，環境問題

191ページ 干拓地の自然再生

例) 三重県では干潟や藻場の再生に取り組んでいる。特に英虞湾では一度干拓された場所を干潟に戻す活動が進められている。

一方、有明海の諫早湾干潟事業では、農地の確保と高潮などの防災目的から諫早湾を堤防で閉め切って干拓を行って、堤防外側では海苔が不作となったことから、沿岸漁業者が工事差し止めの訴訟を起こした。

めではなく、農民が離村しないように所得補償をしている。また化学肥料、農薬を使う大規模農場経営から有機農業の家族経営をすすめるために補助金を出している。さらに干拓地を湿地・海に戻すなど自然の再生をはかり、都市の人材や資金を導入するためにグリーン・ツーリズム（農村にゆっくり滞在することを目的とした旅行）やスローフード（各地に残る食文化や質の高

191 ページ

< 海洋との関わり >

- 海洋環境
- 海洋生物
- 国土保全

10 地球環境問題

201ページ 世界で最初に沈む国

南太平洋の島国 ツバル

地球温暖化による海面上昇により、国土に沈む島

< 海洋との関わり >

- 海岸の地形
- 国土保全



「世界で最初に沈む国」南太平洋の島国ツバルは地球温暖化による海面上昇に強い危機感をいんでいる。2002年、全国民を移住させる準備がはじまった。



1000000

201 ページ

高等学校現代社会
教科書における「海」
第一学習社

編章	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
第1編 現代に生きる私たちの課題					
1	地球環境問題	7 図1 6行	様々な環境問題	地球環境問題の相互作用 海洋汚染, 地球の温暖化, 生活排水の海への流入, 野生生物種の減少	海洋環境問題
1	地球環境問題	8 図3 8-9行	地球の温暖化	水没の危機が高まる島(ツバル) 海面上昇	海洋環境問題
1	地球環境問題	10 13行~	森林の破壊と野生生物の種の減少/捕鯨問題	クジラの捕鯨, 文化的多様性, 生物多様性, 環境保護	海洋生物の利用, 保全・保護
1	地球環境問題	14-15	次の世代に受け渡したい環境	世界遺産条約 ガラパゴス諸島 厳島神社 小笠原諸島 サンゴ礁の海	海洋環境の保全・保護
2	資源・エネルギー問題	18 8行	限りある資源	水産資源 エネルギー資源	海洋の資源
2	資源・エネルギー問題	19 11行	エネルギー利用の変化と石油の需要	資源のほとんどを輸入している	資源運搬としての海運
2	資源・エネルギー問題	20 図3 9行	原子力発電とその課題	東日本大震災では福島第一原子力発電所で深刻な原子力事故が発生. 原子力発電所は沿岸に建設される事が多く, 津波などの対策も問題となる.	エネルギー問題と海の災害
2	資源・エネルギー問題	21 2行	期待される新エネルギー	潮汐を利用した新エネルギー 植物をエネルギー源としたバイオマス・エネルギー	再生可能なエネルギーとして, 波力発電, 潮流・潮汐発電, 海洋温度差発電などの研究・開発 藻類を利用したバイオマスエネルギーの可能性
5	豊かな生活と福祉社会	ケーススタディ 39	二つの豊かさ	南の子どもたち	島の豊かさ
第2編 現代の社会と人間としてのあり方生き方					
第3章 現代の経済社会と私たちの生活	8 産業構造の変化	100	技術革新のあゆみ	1710年蒸気機関発明 1807年蒸気船実用化	航海技術の発展
第3章 現代の経済社会と私たちの生活	8 産業構造の変化	101 5行, 7行, 10行	産業構造の高度化	漁業(第一次産業) 造船業(第二次産業) 運輸(第三次産業)	海洋に関わる産業

編章	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
第3章 現代の経済社会と私たちの生活	8 産業構造の変化	102	第3次産業の現状と課題	運輸, 物流	海運業も運輸, 物流に大きく関わる
第3章 現代の経済社会と私たちの生活	8 産業構造の変化	107	林業・水産業の現状と課題	食料自給率(魚介類) マグロの完全養殖 200海里経済水域, 公海 遠洋漁業の縮小 栽培漁業 「作り育てる漁業」	漁業
第3章 現代の経済社会と私たちの生活	10 公害の防止と環境保全	114	経済発展と公害問題	水俣病 水質汚濁 四日市ぜんそく:石油工場の排水によって漁業に影響 イタイイタイ病:気象庁が海洋のカドミウム測定	海洋環境汚染
第3章 現代の経済社会と私たちの生活	10 公害の防止と環境保全	115-116	公害防止と環境保全 関連P. 176	公害対策基本法(1976年) 環境基本法	海水油濁防止法(船舶の油による海水の汚濁の防止に関する法律) 海洋汚染防止法
第4章 国際経済の動向と日本の役割	1 国際経済のしくみと貿易の拡大役割	124	国際分業と貿易	貿易, 輸入, 輸出	海運業, 港
第4章 国際経済の動向と日本の役割	1 国際経済のしくみと貿易の拡大役割	134 15行	アジア経済の動向	格差:沿岸部と内陸部	沿岸部の経済
第4章 国際経済の動向と日本の役割	4 国際協調と日本の役割	145	国際協力と日本の役割	スマトラ沖地震・津波の復興	海と災害, 支援
第5章 現代の民主政治と私たちの生活	1 民主政治における個人と国家	147	政治と国家	主権の及ぶ範囲(国連海洋用条約) 公海, 深海底, 排他的経済水域, 接続水域, 領海	海洋と領土
第5章 現代の民主政治と私たちの生活	5 平和主義と安全保障	162 6行	戦争の放棄	「陸海空軍その他の戦力は, これを保持しない」	海と軍事力
第5章 現代の民主政治と私たちの生活	5 平和主義と安全保障	163 6行	非核三原則	核兵器の持ち込みにかんし, 在日米軍基地に寄港する艦船に核兵器が持ち込まれているという疑惑.	海と軍事力
第5章 現代の民主政治と私たちの生活	5 平和主義と安全保障	164		自衛隊のイージス艦	海と軍事力
第5章 現代の民主政治と私たちの生活	6 基本的人権の保障と新しい人権	176	新しい人権 関連P. 115	四大公害	環境問題

編章	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
第5章 現代の民主政治と私たちの生活	8 内閣と行政の民主化	184	日本の行政機構		行政機構と海洋
第6章 国際政治の動向と日本の役割	2 国家主権と国際法	206	グロティウス「海洋自由論(1609年)」	「海洋自由の原則(海洋には境界がない。ゆえに誰にも帰属せず、どの国も排他的な権利を主張できない)」を支持。その後の国際法の成立を促すようになった。	海洋法
	3 国境と領土問題	209	領土をめぐる問題	南沙諸島 竹島(韓国での呼称は独島), 尖閣諸島(中国での呼称は釣魚島(魚釣島))	
巻末資料					
環境基本法		262		海洋の汚染, 野生生物種の減少 水質汚濁	

高等学校倫理教科書における「海」
実務出版

編章	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
第1編 青年期の課題と人間の自覚					
第2章 人間としての自覚	第1節 ギリシア思想	16	古代ギリシア世界と思想家の出身地	古代ギリシア世界は地中海, イオニア海を中心に文化が栄えた.	沿岸部の都市
第2章 人間としての自覚	第2節 キリスト教 3 キリスト教の誕生と展開	38	キリスト教の発展 パウロの伝道	キリスト教の初期伝動で大きな役割を果たしたパウロは, 陸路だけでなく海路も利用しキリスト教を広めた地中海のクレタ島, マルタ島を経由してローマへ護送された.	宗教の広まりと海路
第2章 人間としての自覚	第4節 仏教 3 大乘仏教の成立	49	仏教の伝播	ブッダの死後, ブッダの教えの解釈を巡りいくつかの部派に別れたが, 上座仏教はインドからスリランカを経て東南アジアに広まった.	宗教の広まりと海路
第3章 日本人としての自覚	第1節 古代日本人の思想	68-69	日本人の生活と自然観 万葉集の自然観	優美な花鳥風月を歌う趣味が形成され始め, 「荒れ狂う海」など自然の荒々しさを表現をすることはなくなってきた.	海を表現する
第3章 日本人としての自覚	第1節 古代日本人の思想	70	日本の地政的な位置	海を通した, 海外(大陸)からの文化の刺激	文化の伝達経路としての海
第3章 日本人としての自覚	第3節 近世日本の思想(1) 1 儒教の受容と朱子学	86	儒教の伝来と受容	儒教は 5-6世紀ごろ中国・朝鮮半島から日本に伝わってきた	
第3章 日本人としての自覚	第4節 近世日本の思想(2) 3 幕末の思想	96-97	鎖国政策 西洋文明との接触	オランダからの学術の導入	貿易, 文化の伝来経路としての海路
第2編 現代と倫理					
第1章 現代の特質と倫理的課題	第1節 科学技術の発達と現代文明の危機	117	他者の発見一大航海時代	航海技術の発達とともにヨーロッパの宗教や価値観を持ち込んだ.	航海技術
第2章 現代の特質と倫理的課題	第2節 科学技術の発達と現代文明の危機	119	現代文明の課題	地球温暖化	海水温の上昇
第3章 現代の諸課題と倫理	第2節 環境の倫理	182	環境破壊の進行	地球温暖化, 野生生物種の減少	海水温の上昇, サンゴ礁の減少など

高等学校物理基礎, 物理
教科書における「海」
第一学習社

キーワード	物理基礎	物理	海洋との関わり
水圧 浮力 アルキメデスの原理 浮力と力のつりあい	p. 50 第I章力と運動 第2節 力のはたらきとつりあい 2. 力の合成・分解とつりあい 5) 液体中における圧力と浮力		海水の密度は水（純水）よりも高いため、ものが浮きやすい（浮力が大きい）。
熱容量 (熱容量が大きいほど、同じ熱量の出入りに対して、温まりにくく冷めにくい)	p. 130 第II章エネルギー 第2節 熱とエネルギー 1. 熱と温度 5) 熱容量と比熱		海洋の温度は変化しにくい。 (内陸にくらべて沿岸域や島嶼の気候は大きな温度変化を伴わない)
波の性質 波の屈折	p. 156-177 第III章波動 第1節 波の性質	p. 108-121 第II章波動 第1節 波の伝わり方	海洋の波とは、海面の起伏のことであり、一般に風によって生じる。 波は周期によって分類することができる（さか波，うねり，セイシュ（港でバチャバチャと前後に揺れる波），津波，潮汐など）。
波力発電	1) 振動水中型：装置内に空気室を設け、海面の上下動によって生じる空気室内外の圧力差により空気タービンを回転させる方式。 2) 可動物体型：可動物体を介して波の作用による移動を機械的エネルギーなどに変換して発電するシステム。 3) 越波型：波を貯水池などに越波させて貯留し、貯水面と海面との高低差を利用して海に排水する際に、タービンを回して発電する方式 [参考]NEDO海洋再生エネルギー技術白書 http://www.nedo.go.jp/library/ne_hakusyo_index.html#pdfDL		
音波の伝わり方 (音速は媒質によって異なり、一般に気体、液体、個体の順に大きくなる。) 水中の音の伝搬	p. 180 第III章波動 第2節 音波 1. 音の伝わり方	p. 122-124 第II章波動 第2節 音波 1. 音の伝わり方	水中の音の伝搬 音速（一般的に） 大気中 334m/秒 海 1,445m/秒 塩分が1‰上がる毎に約1.3m/秒，速くなる 水温が1度上がる毎に約4.5m/秒，速くなる 深度が100m深まる毎に（実際には水圧の増加による）約1.7m/秒，速くなる

キーワード	物理基礎	物理	海洋との関わり
ドップラー効果	p. 192-193 第III章波動 第2節音波 3. ドップラー効果 (発展)	p. 122-1241 第II章波動 第2節音波 2. ドップラー効果	水の流れを測る技術 <音響ドップラー流速計> 観測船の船定あるいは海底に設置され、異なる方向に向けて超音波パルスを送信する。このパルスが、機器からおよそ100m以内の水中の粒子によって反射される。粒子が機器から遠ざかったり近づいたりするとドップラー偏移が生じるため、それから流れの向きと強さを求める。
光の分散と屈折率 水中の光の透過	p. 201-203 第III章波動 発展 1. 光の性質 4) 光の分散と屈折率	p. 136-138 第II章波動 第3節光波 1. 光の性質 4) 光の分散と屈折率 光の波長と色	水中の光の透過 可視光のうち、波長の長い赤や黄色は波長の長い緑や青よりも先に水に吸収される。よって、海は青や緑色に見える。
簡易分光計の製作		p. 136-138 第II章波動 第3節光波 3. 光の回折と干渉 探求活動) 簡易分光計の製作	空き缶とCD/DVDで作る簡易分光計。海藻類を用いると、植物が特定の波長を吸収(利用)していることがわかる(別紙参照)。
化石燃料の利用と環境 保全	p. 260 第IV章電気 第3節エネルギーと その利用 1. 太陽エネルギーと 化石燃料 3) 化石燃料の利用 と環境保全		地球温暖化、海水温の上昇など
バイオマスエネルギー	p. 260 第IV章電気 第3節エネルギーと その利用 1. 太陽エネルギーと 化石燃料 バイオマスエネル ギー		バイオマスエネルギーとしては、海藻類の利用がある。 NEDOは「戦略的次世代バイオマスエネルギー利用技術開発事業」を展開しているが、藻類からバイオ燃料を得る技術開発を進めている。 http://www.nedo.go.jp/activities/CA_004551.html

参考文献

ポール・R・ピネ著, 東京大学大気海洋研究所監訳 海洋学 原著第4版 東海大学出版 2010年

NEDO 海洋再生エネルギー技術白書

NEDO: 独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

(New Energy and Industrial Technology Development Organization)

光合成色素と光の吸収

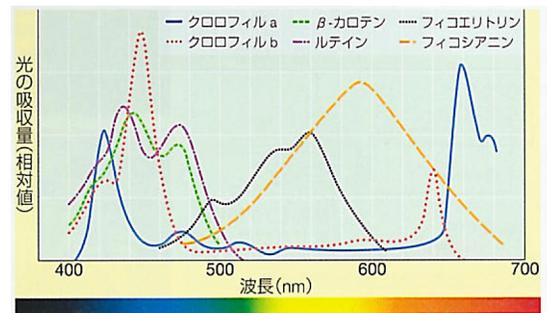
光合成色素が特定の波長の光を吸収することを自作の分光器で確かめてみる

光の吸収

光合成色素は特定の波長の光をよく吸収し、その光エネルギーを光合成に用いる。クロロフィルは 430nm 付近の青色光と 660nm 付近の赤色光をよく吸収する（クロロフィル a は 430nm, 663nm, クロロフィル b は 460nm, 645nm に吸収のピークが見られる）。

「分光」とは光を色（波長）によって分けることで、分光して得られた光の帯を「スペクトル」と呼ぶ。

物質がどの波長の光をどれくらい吸収するかを表したものを吸収スペクトルという。



光合成色素の吸収スペクトル

サイエンスビュー 生物総合資料より

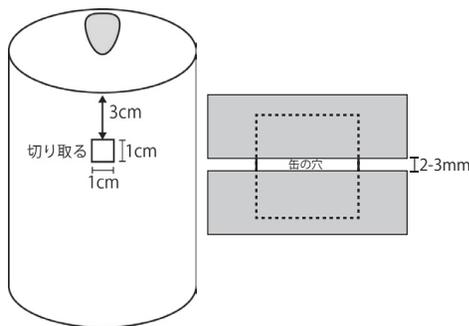
DVD を用いた吸収スペクトル観察用簡易分光器を作製し、海藻を透かしてみることで光合成色素による特定の光の吸収について手軽に観察することが出来る。

準備

空き缶, DVD, ハサミ, カッター, 黒いビニールテープ

作製

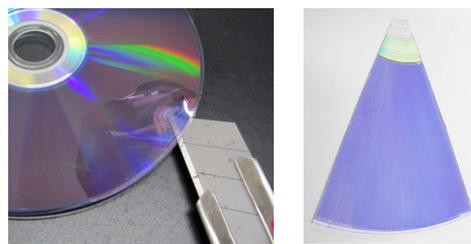
1) プルタブを取り除き, 空き缶にスリットを作る



飲み口に対して反対側に, 上から 3cm の位置に四角い穴をあける。

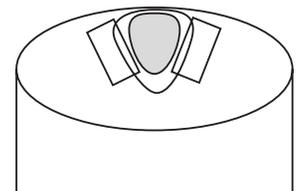
黒いビニールテープを 2 枚貼り, 光が入る 2-3mm の隙間を作る。

2) DVD を透過型の回折格子にする



ハサミで端に少し切り込みを入れ, 隙間にカッターナイフを差し込んで色素面とレーベル面 (反射面) 一気に剥がす。色素面 (透明な方) を透過型の回折格子として利用する。(反射面が残った場合には, セロハンテープなどを付けて取り除く。) ハサミで適当な大きさに切る。

3) DVD の貼付け



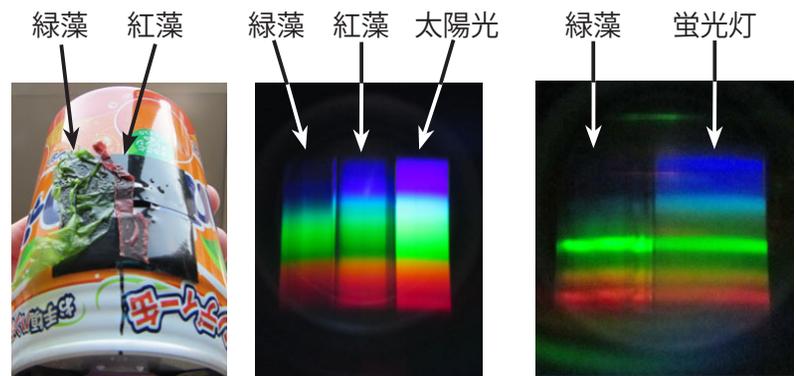
飲み口に透明になった DVD を貼付ける。内側を下向きに, 両側をビニールテープで貼付ける。

観察

スリットから光が入るようにして飲み口から缶の底の方を見るとスペクトルが観察できる。

スリットに海藻を乗せると, クロロフィルにより青色と赤色の光が吸収されるので暗く見える。

光源により見えるスペクトルは異なる。



光源を太陽光とし, スリットに緑藻 (左) と紅藻 (中央) を乗せたときのスペクトル

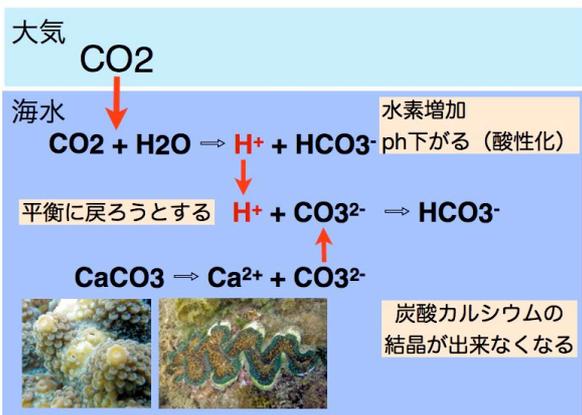
光源を蛍光灯とし, スリットに緑藻 (左) を乗せたときのスペクトル

参考文献

木下正博 CD, DVD を用いた光の回折・干渉実験 平成 21 年 東レ理科教育賞
サイエンスビュー 生物総合資料 実教出版 (2009)

高等学校化学基礎, 化学
教科書における「海」
東京書籍

キーワード	化学基礎	化学	海洋との関わり
イオンの生成	p. 56 第1編 物質の構成 3章 化学結合 2. イオン		塩分を構成するイオン *詳しくは別紙参照 海水中のイオン全体に占める重量の割合 塩素(Cl^-) 55.04% ナトリウム(Na^+) 30.61% 一定比率の法則 世界中の海洋の塩分には場所により違いが見られる(塩分濃度が濃い場所と薄い場所がある)。 しかし、主要化学成分の相対的な比は一定。 このことは、海水サンプルの1つの主要な溶存イオン濃度をそくしていすれば、海水の塩分濃度を測定できることを意味する。
物質の三態 凝固 蒸発 水の最大密度は3.98度		p. 8 第1編 物質の状態と平衡 1章 物質の状態 1. 物質の三態	水は他の物質と異なり、個体=氷が水に浮かぶ。 *凝固点で液体は結晶化して個体となる。個体中の分子は液体よりも振動が少ないので、分子がすきずめ状態となり密度が高く、液体中に沈む。しかし、氷の分子はスカスカな結晶構造をとる。また、水の2つの水素原子の結合角が液体や気体では 105° なのに対し、氷では 109.5° に広がり、氷の密度は水より約8%下がる。
浸透圧 逆浸透		p. 55 第1編 物質の状態と平衡 3章 溶液の性質 2. 希薄溶液の性質 E) 浸透圧と分子量 Column生活と化学： 逆浸透	海水の淡水化

キーワード	化学基礎	化学	海洋との関わり
化学平衡		p. 166 第3編 化学反応の速さと平衡 3章 水溶液中の化学平衡 1. 電離平衡 A) 電離平衡	海の酸性化が生物に影響を及ぼすメカニズム サンゴや貝などは海水中のカルシウムイオンと炭酸イオンを利用して炭酸カルシウムの骨や殻を作っている。 しかし、海水中に二酸化炭素が溶け込んでくると、下記の「水溶液のpH」の項に書き記した式に従い、水素イオン濃度が上昇しpHが下がる（海洋酸性化）。海の酸性化が進むと、カルシウムイオンと結合できる炭酸イオンの濃度が減少し、炭酸カルシウムを作りにくくなる。 下図参照
		<div style="text-align: center;"> <p>大気 CO₂</p> <p>海水 CO₂ + H₂O ⇌ H⁺ + HCO₃⁻ 水素増加 pH下がる（酸性化）</p> <p>平衡に戻ろうとする H⁺ + CO₃²⁻ ⇌ HCO₃⁻</p> <p>CaCO₃ ⇌ Ca²⁺ + CO₃²⁻</p>  <p>炭酸カルシウムの結晶が出来なくなる</p> </div>	
水溶液のpH	p. 149 第2編 物質の変化 2章 酸と塩基 2. 水素イオン濃度とpH	p. 171 第3編 化学反応の速さと平衡 3章 水溶液中の化学平衡 1. 電離平衡 B) 水の電離平衡とpH	水のpHはCO ₂ システムと直接関係しており、以下の化学式で表されるようにCO ₂ を水に加えるとH ⁺ が生じ、水が酸性になる。 $\text{CO}_2 + \text{H}_2\text{O} \rightarrow \text{H}_2\text{CO}_3 \rightarrow \text{HCO}_3^- + \text{H}^+ \rightarrow \text{CO}_3^{2-} + 2\text{H}^+$ 通常、海水のpHは7.8-8.2で平衡状態の海水中の炭素化合物の相対的な存在割合はpHに依存する。
緩衝作用		p. 175 第3編 化学反応の速さと平衡 3章 水溶液中の化学平衡 2. 塩の水への溶解 観察実験：緩衝液	海水の緩衝作用 海水中の生物の光合成などによりCO ₂ の量によりpHは変化するが、平衡状態に戻ろうとするため海水中のpHは7.5-8.5の間を大きく超えることはない。この状態は平衡状態と表現される。

キーワード	化学基礎	化学	海洋との関わり
イオン交換樹脂	p. 10 序編 化学と人間生活 1. 人間生活の中の 化学 D. プラスチック	p. 455 第6編高分子化合物 3章合成高分子化合物 2. プラスチック D)イオン交換樹脂	海水の淡水化
イオン交換樹脂		p. 470 探求29 イオン交換 樹脂	海水の淡水化

参考文献

ポール・R・ピネ著, 東京大学大気海洋研究所監訳 海洋学 原著第4版 東海大学出版 2010年

表 1 海水の主な溶質

塩分を構成するイオン	海水中のイオンとしての濃度*(%)	イオン全体に占める重量の割合(%)	累積した重量の割合(%)
塩素 (Cl ⁻)	18.980	55.04	55.04
ナトリウム (Na ⁺)	10.556	30.61	85.65
硫酸 (SO ₄ ²⁻)	2.649	7.68	93.33
マグネシウム (Mg ²⁺)	1.272	3.69	97.02
カルシウム (Ca ²⁺)	0.400	1.16	98.18
カリウム (K ⁺)	0.380	1.10	99.28
重炭酸 (HCO ₃ ⁻)	0.140	0.41	99.69
臭素 (Br ⁻)	0.065	0.19	99.88
ホウ酸 (H ₃ BO ₃)	0.026	0.07	99.95
ストロンチウム (Sr ²⁺)	0.013	0.04	99.99
フッ素 (F ⁻)	0.001	0.00	99.99
合計	34.482	99.99	99.99

*1kgの海水中におけるイオンのグラム重量 ; g/kg. H. U. Sverdrup, M. W. Johnson, and R. H. Fleming, The Oceans (Englewood Cliffs, N. J. : Prentice-Hall, 1942)より引用

表 2 海水中の微量元素の例

微量元素	濃度 (ppb) *
リチウム (Li)	170
ヨウ素 (I)	60
モリブデン (Mo)	10
亜鉛 (Zn)	10
鉄 (Fe)	10
アルミニウム (Al)	10
銅 (Cu)	3
マンガン (Mn)	2
コバルト (Co)	0.1
鉛 (Pb)	0.03
水銀 (Hg)	0.03
金 (Au)	0.004

*ppb=10億分の1

高等学校生物基礎, 生物
教科書における「海」
東京書籍

キーワード	生物基礎	生物	海洋との関わり
光合成	p. 22 第1編 生物の特徴 2章 生命活動とエネルギー 3-生体内におけるエネルギー変換	p. 58-61 第1編 生命現象と物質 3章 代謝とエネルギー 3 光合成 観察実験5: クロマトグラフィーによる光合成色素の分離実験	海藻や海草類も海水中で光合成を行う。 これらの生物も海水中の生態系では生産者として重要な役割を果たす。 海藻（紅藻，褐藻，緑藻）を用いた色素分離の実験。
ゲノム	p. 49 第2編 遺伝子とそのはたらき 1章 生物と遺伝子 3-ゲノムと遺伝情報		ホヤ類は海産の無脊椎動物で，我々人間（脊椎動物）に最も近い尾索動物である（教科書では尾索動物と頭索動物をまとめて「原索動物」と表記している）。日本人とアメリカ人のグループが中心になって全ゲノム塩基配列が解読された。 2011年には日本人が沖縄のサンゴを用いてサンゴの全ゲノム配列を決定している→サンゴは教科書内で何回もでてくる。関連：基礎p. 173<炭素の循環>，基礎p. 179<地球の温暖化>，基礎p. 184<生物種の絶滅>
受精		p. 156-158 第3編 生殖と発生 2章 動物の発生 3 受精 観察実験12: ウニの配偶子と受精の観察	海産のウニは受精・発生実験のよいモデル生物となっている。
細胞周期の観察 ウニの発生	p. 75-77 第2編 遺伝子とそのはたらき 3章 遺伝情報とタンパク質の合成 探求2：細胞周期の観察 step 3 ウニの受精卵における細胞周期を調べる	p. 170-172 第3編 生殖と発生 2章 動物の発生 5 ウニの発生 観察実験13: ウニの発生	海産のウニを用いて受精卵の細胞分裂を生きのまま観察することが出来る。
体内環境／体外環境	p. 82 第2編 生物の体内環境の維持 1章 体内環境 1- 体内環境の特徴 A- 動物の進化と体内環境		「海水」という体外環境に適した体内環境の維持の仕組みは，淡水や陸上とは異なる。どのような特徴を持っているだろうか？

キーワード	生物基礎	生物	海洋との関わり
海流 バイオーム マングローブ	p. 156 第4編 生物の多様性と生態系 2章 気候とバイオーム 1- 地球上の植生分布 A- 地球規模の気候の違い		海流は海洋環境や海洋生物だけでなく、陸上の気候や降水量、さらには植生や生物相・生態系にも影響を及ぼす。
マングローブ	p. 165, 169 第4編 生物の多様性と生態系 2章 気候とバイオーム 2-陸上のバイオーム		マングローブ林は淡水と海水が混ざりあう汽水域に発達する。塩分耐性は種によって異なり、河口から帯状分布する。 近年は「環境保全」としてマングローブの植林が行われることがあるが、本来分布しない種を植えることによる人為的攪乱（関連：基礎p. 185<外来生物の問題と自然再生>，基礎p. 187<遺伝的攪乱>）などの問題も生じている。
炭素の循環 サンゴ	p. 173 第4編 生物の多様性と生態系 3章 生態系とその保全 2- 生態系での物質の循環 A- 炭素の循環		サンゴはサンゴ礁生態系の基盤となるだけでなく、地球規模の物質循環でも役割を担っている。
地球の温暖化	p. 179 第4編 生物の多様性と生態系 3章 生態系とその保全 3- 生態系のバランスと保全 B-地球の温暖化		地球規模の環境変動は陸域・海域ともに影響を及ぼす。 サンゴは特に夏期の海水温が長期にわたり上昇するとダメージを受け、海水温が低下しても回復しない。サンゴが死ぬとサンゴ礁をすみかとする生物などが大きく影響を受け、生態系が大きく変わる。
干潟の生態系	p. 182 第4編 生物の多様性と生態系 3章 生態系とその保全 3- 生態系のバランスと保全 D-干潟の生態系		干潟は陸域と海域を結ぶ重要な役割を果たしている。 近年は開発などにより多くの干潟が失われ、生物も固有の生物も減少している（関連：基礎p. 184<生物種の絶滅>）

キーワード	生物基礎	生物	海洋との関わり
生物種の絶滅	p. 184 第4編 生物の多様性と生態系 3章 生態系とその保全 4- 生物多様性の保全 B- 生物種の絶滅		沖縄の土砂の流出：パイナップルやサトウキビ畑の開発の結果、大雨などにより赤土が海域に流失するようになった。サンゴや底にすむ小型の生物に影響が見られる。
外来生物	p. 185 第4編 生物の多様性と生態系 3章 生態系とその保全 4- 生物多様性の保全 C-外来生物の問題と自然再生		日本が汚染源となっている海産生物もいる。例えばワカメは日本から海外に「外来生物」として運ばれた。ヨーロッパではワカメを食べる習慣がなく、沿岸域の生態系に影響を及ぼしている。
捕食者がもたらす共存		p. 334 第5編 生態と環境 1章 個体群と生物群集 5 生物群集の成り立ちと多種の共存 B- 捕食者がもたらす共存	海の生物の生態系を題材に捕食者がもたらす共存を示している。
深海底の生態系		p. 339 第5編 生態と環境 2章 生態系の物質生産とエネルギーの流れ 1 食物網と物質生産 コラム：深海底の生態系	光の届かない深海では光エネルギーを利用してATPを合成することが出来ない。数千メートルの海底の熱水噴出口では化学合成によりATPを合成している。
生命の誕生 化学進化 生物の変遷		p. 377-397 第6編 生物の進化と系統 1章 生命の起源と生物の変遷 1 生命の起源 2 生物の変遷	生命誕生は原始地球上の「原始の海」が鍵を握っている。「原始の海」で起きたと考えられるか「化学進化」を経て誕生した生命は、「原核生物」として地球上に始めて生物として出現した。
		p. 386 2 生物の変遷 B- 海での生物の繁栄	海中では多様な生物が出現・絶滅を繰り返した。
生物の系統		p. 450-451 第6編 生物の進化と系統 3章 生物の系統 3 生物の系統のまとめ	現世の生物は非常に多様化しているが、陸上よりも海水中の方がより多くの分類群の生物が見られる。

高等学校国語総合教科書における「海」
東京書籍

		ページ	内容	海洋との関わり
国語総合 現代編				
7 詩歌	十五の心一短歌抄	126	与謝野晶子 海恋し潮の遠鳴りかぞへては 乙女となりし父母の家	海を読み込んだ詩歌
7 詩歌	十五の心一短歌抄	127	若山牧水 白鳥は哀しからずやその青 海のをにもそまずただよふ	海を読み込んだ詩歌
7 詩歌	十五の心一短歌抄	128	寺山修司 マッチ擦るつかの海に霧かふ 身捨つるほどの祖国はありや	海を読み込んだ詩歌
7 詩歌	白牡丹一俳句抄	131	山口誓子 海に出て木枯帰るところなし	海を読み込んだ詩歌
7 詩歌	学習の手引き	128-131	3 それぞれの歌、句から、どのような情景や心情を読み取ったか、話し合おう。	
国語総合 古典編				
古文編				
1 古文入門	十訓抄	16	天の橋立	沿岸の地形を呼んだ歌
3 物語	竹取物語	35	蓬萊の玉の枝	蓬萊までの船旅(実際には、難波から筑紫まで)
7 紀行	土佐日記	90-91	馬のはなむけ	京から土佐までの船旅
7 紀行	土佐日記	92-93	阿倍仲麻呂	京から土佐までの船旅
7 紀行	土佐日記	94-95	帰京	帰京の船旅
7 紀行	奥の細道	98-99	漂白の思ひ	当時の移動手段としての舟
7 紀行	奥の細道	104	大垣	伊勢に行こうと船に乗る
古典の広がり	東海道中膝栗毛	114	蛤	古典に出てくる海産物
漢文編				
4 史話	漢文の窓	156	交友論、君臣水魚の交わり	君臣水魚: 君主と臣下との間が親密なことを水と魚との関係にたとえていう語。(大辞林 第三版(三省堂))

高等学校国語現代文B
教科書における「海」
三省堂

		ページ	内容	海洋との関わり
一部				
1 評論	木を伐る人／植える人 赤坂憲雄	P.11-12	陸奥湾	三内丸山遺跡の時代(縄文時代)は現代より海水面が高く、地勢が異なっていた。
2 評論	木を伐る人／植える人 赤坂憲雄	P.12, 7行目	丸木舟	木材の利用目的としての「舟」
3 評論	ミロのヴィーナス／清岡卓行	P.42, 5行目ー	パロス, メロス島, ギリシアの海	地中海ギリシア周辺の海(イオニア海, エーゲ海など)の位置と歴史
3 評論	人類による環境への影響 ／鷲谷いつみ	P.61, 1行目	漁労	生活の糧を得るための手段, 海の幸
4 評論	人類による環境への影響 ／鷲谷いつみ	P.62, 2行目	海開きという習わし	海の利用のしかた, 風習
5 評論	人類による環境への影響 ／鷲谷いつみ	P.63, 7-8行目	水産物, 漁場	人類の地球生態系の利用
	現代評論を読むために2環境	P.66, 中段, 2行目	海面上昇(地球温暖化)	海洋環境
	現代評論を読むために2環境	P.66, 下段, 12行目	海洋汚染	海洋環境
	現代評論を読むために4グローバルゼーション	P.169, 上段, 11行目	海洋汚染	海洋環境
二部				
1 評論	身体像の近代化／野村雅一	P.218, 5行目	腕足類	海産無脊椎動物, シヤミセンガイ, ホオズキガイなど
1 評論	身体像の近代化／野村雅一	P.219-220	漁師, 漁民	民衆の代表的な職業の一つとして列記.
1 評論	あるく共生>の経験から ／石原吉郎	P.254, 上段, 2-3行目	イソギンチャクとヤドカリ	海産生物。「共生」の例として.
1 評論	あるく共生>の経験から ／石原吉郎	P.260, 上段, 6行目	「潮に引き残されるように」	海の潮の満ち引きの現象を例えた表現
1 評論	日本文化の雑種性／加藤周一	P.272, 下段, 2-10行目	船, 海, 漁村の白壁, 関門海峡, 右舷	「日本らしさ」の表現の中の海に関する記述。
1 評論	現代日本の開化／夏目漱石	P.286, 下段, 9行目	鎖港排外	鎖国して外国の文物をさけること。
2 小説	舞姫／森鷗外		舟, セイゴンの港, ブリヂイシイの港	船旅のようす
3 詩歌	鞆韃は一俳句十六句	P.367	山口誓子 海に出て木枯帰るところなし	海を読み込んだ詩歌
表現と実用の文章	情報の読み方・扱い方	P.395 表1	平均海面水位	地球温暖化の影響の現状の例としての平均海面水位

高等学校国語古文B
教科書における「海」
三省堂

		ページ	内容	海洋との関わり
一部				
1 随筆(一)	枕草子／清少納言 大納言殿参り給ひて	P.10, 6行 目	海月の骨	珍しい扇の骨を自慢に来た大納言に対し、「クラゲの骨ではないのですか？」と返す場面。海洋生物が古文に出てくる例。
3 随筆(二)	徒然草／兼好法師 世に従はん人は	P.41, 2行 目	沖の干潟遥かなれども、磯より潮の満つるごとし。	干潟は沖まで続いていると安心していても、急に足下の磯から潮がみちてくるようだ。という表現。 人生の「死」が不意にくる様子を海の自然現象に例えて表現した例。
7 軍記	平家物語 忠度の都落ち	P.98, 14 行目	西海の波の底	古文に出てくる海
7 軍記	平家物語 能登殿の最期	P.100- 103	壇ノ浦の戦い	海戦
8 和歌と連歌	万葉集 柿本朝臣人麻呂、岩見の国より妻を別れて上り来る時の歌	P.104	岩見の海を思いながら、妻を思う	古文に出てくる海
8 和歌と連歌	金槐和歌集 源実朝	P.110	伊豆の海や沖の小島	古文に出てくる海(相模湾一帯)
9 近世の文学	近世俳諧	P.114	凧の果てはありけり海の音 池西言水	俳句に出てくる海
9 近世の文学	近世俳諧	P.115	海くれて鴨の声ほのかに白し 松尾芭蕉	俳句に出てくる海

